



勝連城跡周辺文化観光施設基本計画



勝連城跡周辺文化観光施設基本計画

発行：うるま市

沖縄県うるま市みどり町1丁目1番1号

<http://www.city.uruma.lg.jp/>

編集：都市建設部 都市政策課

TEL：098-923-7606（直通）

FAX：098-923-7604

平成29年3月

うるま市 都市建設部 都市政策課

目 次

第1章 勝連城跡周辺文化観光施設基本計画の基本的な考え方

1. 上位計画・関連計画	1
(1) 上位計画・関連計画の整理	1
2. 勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画における基本方針	2
(1) 整備基本計画における「勝連城跡周辺文化観光拠点」の将来像	2
(2) 整備基本計画における「勝連城跡周辺文化観光拠点」の基本方針	2
(3) ゾーニングの基本方針	3
(4) 本事業の対象施設及びエリア	4
3. 勝連城跡周辺文化観光施設基本構想における基本理念	5
4. 本事業の目的	6
5. 全体方針	6
(1) 基本理念	6
(2) めざす施設像	7
(3) 基本的な考え方	10
(4) ターゲットの考え方	13
(5) 周辺施設との関係性	14
6. 世界遺産・勝連城跡の価値と活用の考え方	15
(1) 世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」	15
(2) 文化観光施設としての活用のあり方	17

第2章 事業の展開

1. 当計画施設全体の事業活動	18
2. 歴史・文化施設の事業活動	18
(1) 基本的な考え方	18
(2) 事業活動の内容	19
3. 物産・観光施設の事業活動	31
(1) 基本的な考え方	31
(2) 事業活動の内容	32

第3章 管理運営計画

1. 管理運営の対象エリア	36
2. 運営の基本方針	37
(1) 基本的な考え方	37
(2) 当計画施設の事業範囲	37
3. のぞましい運営体制のあり方	38
(1) 運営体制のあり方	38
(2) 必要人員	40

4. 開館形態	42
(1) 開館時間	42
(2) 料金	42
5. 管理運営手法	43
(1) 管理運営手法にもとづいた整備方針、整備手法	43
(2) 課題と与条件及び運営への要求事項の整理	44
(3) 指定管理者制度の検討に関する基本的な考え方	45
6. 運営費に関する概算試算	46
(1) 収支の構成と考え方	46
(2) 収支想定	47

第4章 施設整備計画

1. 整備コンセプト	48
(1) 勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本設計における基本方針	48
(2) 勝連城跡周辺文化観光施設における整備コンセプト	49
2. 設計、デザイン方針	56
(1) 物販部門の想定面積	56
(2) 飲食部門の想定面積	57
(3) 屋外施設の考え方	58
3. 計画地・計画施設概要	59
4. 施設構成及び諸室空間	60
(1) 施設諸室面積表	60
(2) 配置計画の検討	62
5. 完成イメージ図	66
6. 事業スケジュール	67

第5章 概算事業費

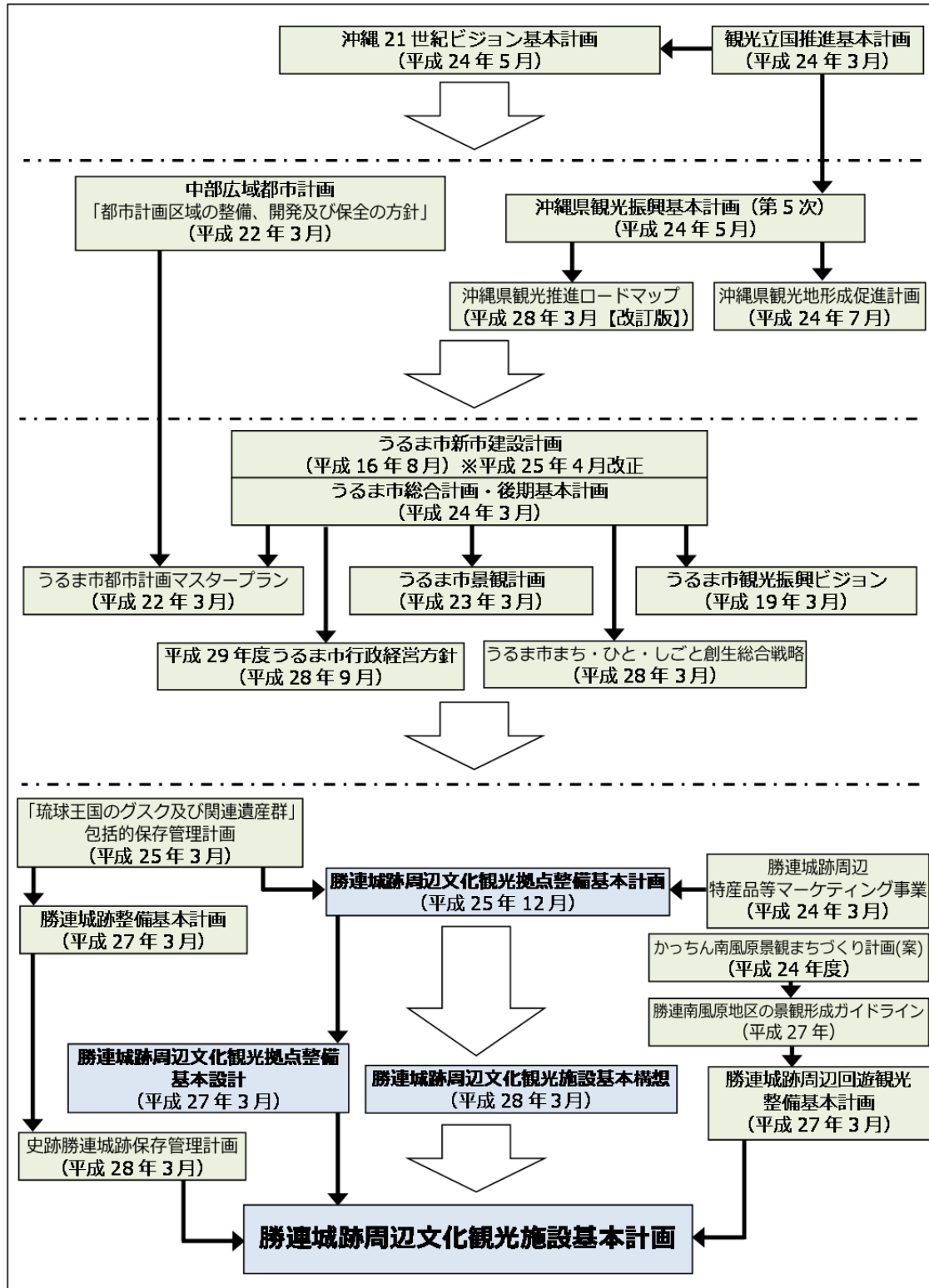
1. 建設費等の概算試算	68
2. ランニングコストの整理	69

第1章 勝連城跡周辺文化観光施設基本計画の基本的な考え方

1. 上位計画・関連計画

(1) 上位計画・関連計画の整理

勝連城跡周辺文化観光施設（以下、「当計画施設」とする。）を検討する上で前提条件となる上位計画及び関連計画を整理すると以下のとおりとなる。



2. 勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画における基本方針

(1) 整備基本計画における「勝連城跡周辺文化観光拠点」の将来像

勝連城跡周辺文化観光施設（以下、「当計画施設」とする。）の検討に際し、上位計画である「勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画（以下、「整備基本計画」とする。）」において、勝連城跡及びその周辺地域の将来像として、下記が設定されている。

■ 整備基本計画における将来像

きむたか

肝高の歴史浪漫を感じる交流空間の創出

<考え方>

世界遺産である勝連城跡及び周辺地域を、当市の歴史文化の拠点として、また市民や来訪者など様々な人々が交流し、文化・観光の振興に資する空間として整備を図る。

(2) 整備基本計画における「勝連城跡周辺文化観光拠点」の基本方針

将来像を実現するための基本方針として、下記の三つが設定されている。

歴史を感じる空間づくり <歴史・文化的資源を保全・活用する>

国指定文化財の史跡及び世界遺産である勝連城跡は、沖縄県を代表するグスクの一つであり、当市においても最も広く知られた遺産であることから、その歴史・文化的資源を保全しながら、城壁や門などの復元をめざす。また、観光拠点及び学校教育・生涯学習の場として活用を図るために、歴史・文化施設やグスクへのアプローチ道及び園路の整備など、質の高い文化観光拠点として施設整備を図る。

さらに県道 16 号線沿道の電線地中化による勝連城跡に向かうメインストリートにふさわしい雰囲気づくりを進める。

自然を楽しむ空間づくり <自然環境を保全・活用する>

勝連城跡及びその周辺には、コピタ（池）をはじめとした良好な自然環境や多様な植生が残っていることから、その保全を図り、勝連城跡と一体となった整備・活用を図る。

また、勝連城跡は当市のシンボルとなる優れた景観を有しており、城跡頂上からは 360 度パノラマの絶景や、南風原や浜屋などの集落景観、コピタ（池）などの自然景観が見られることから、勝連城跡及びその周辺地域を含めた歴史及び自然景観の保全・活用を図る。

交流を生み出す空間づくり <観光拠点としての整備・活用を図る>

世界遺産である勝連城跡は、当市を代表する観光拠点の一つであることから、観光地としての活用及び機能の強化を図る。そのため、周辺地域と連動した観光ルート及び交通拠点づくり、勝連城跡への案内板・サイン表示の充実及び飲食店やお土産品などの商業施設の充実を図る。

さらに、県内外に向けての情報発信や、観光ガイド及び地域活性化に資する人材育成などの組織づくり、南風原集落の文化資源の活用、肝高の阿麻和利など勝連城跡を舞台としたイベントや祭りの開催など、ソフト面の充実を図る。

(3) ゾーニングの基本方針（整備基本計画より）

基本方針をふまえ、勝連城跡及びその周辺地域において、下記のような特徴をもったゾーニングを設定している。なお、当計画施設は、「拠点ゾーン」に設置されるものである。

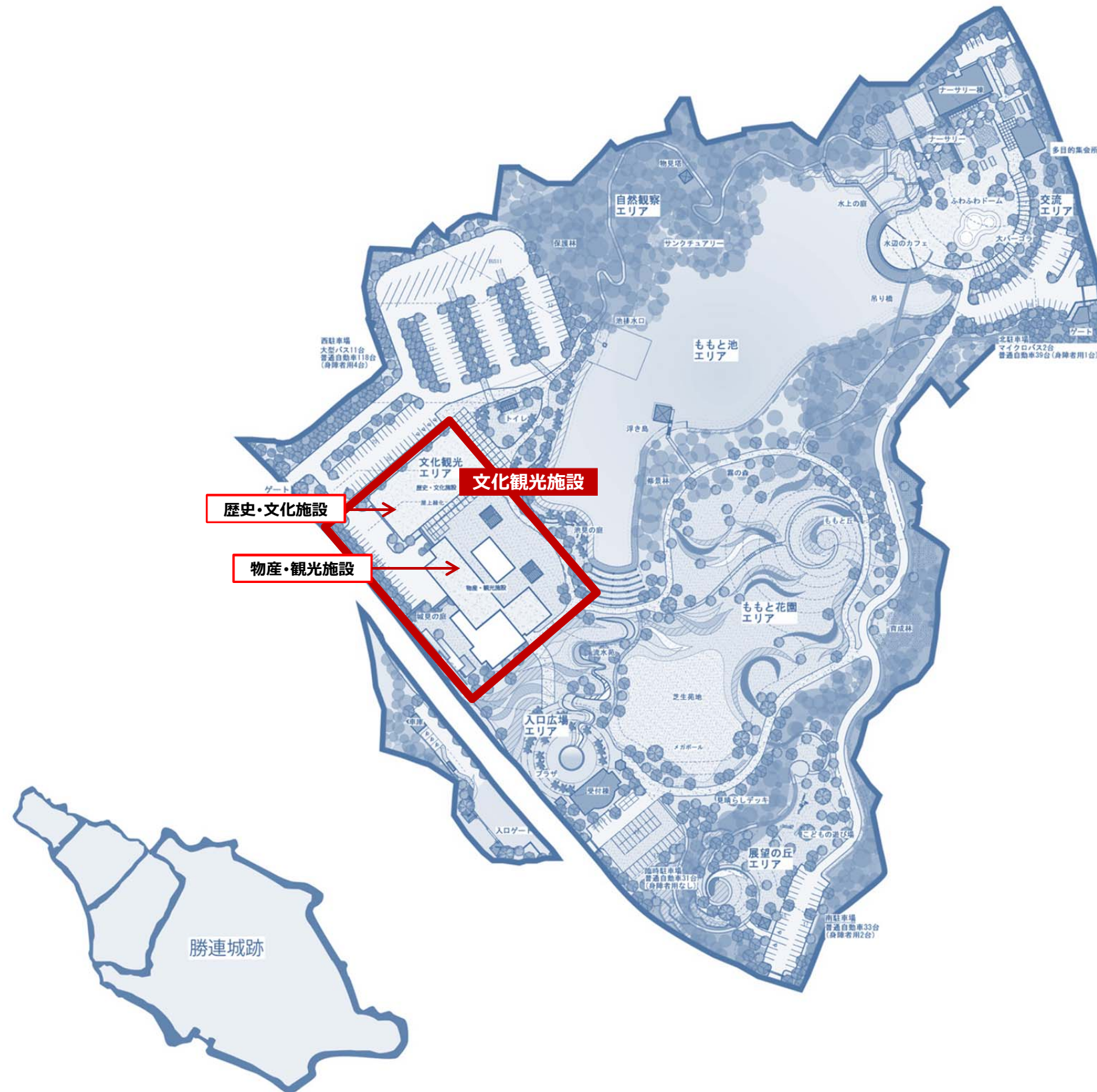
■ゾーニング



(4) 本事業の対象施設及びエリア

先に記した「拠点ゾーン」のうち、本事業は下図の「拠点エリア」の中の赤枠で示した文化観光エリア及び文化観光施設を対象とするものである。

■ 本事業の対象エリア及び対象施設



3. 勝連城跡周辺文化観光施設基本構想における基本理念

当計画施設に関わる直接的な上位計画である勝連城跡周辺文化観光施設基本構想では、基礎調査の結果をふまえ、下記の基本理念と基本的な考え方が示されている。

そこで、本基本計画では基本計画に記された基本理念などをふまえ、具体的な施設像及び整備のあり方を検討するものとする。

■ 基本構想で示された基本理念

**勝連城跡の価値と魅力を高め、
来訪と交流を創出・促進する地域活性化拠点**

■ 基本的な考え方（要約）

● 勝連城跡の魅力の発信と来訪動機の創出

世界遺産である勝連城跡が有する文化的な価値と類いまれな景観を重視し、その魅力を広く発信する。認知度の向上と来訪の動機創出を図る。

● 世界遺産・勝連城跡の価値と魅力の向上

勝連城跡について幅広い視点から歴史的・文化的価値と魅力をわかりやすく紹介し、世界遺産・勝連城跡のガイダンス施設として機能する。

● 「地域ブランドの創出」による地域の活性化への寄与

世界遺産・勝連城跡が有する価値、観光振興への可能性を磨くことで、「地域ブランドの創出」による地域の活性化に寄与する。

● 沖縄中部における観光ターミナルとしての機能

海中道路や中部の観光施設の中間に位置するという立地の優位性を活かし、本島中部地区における観光ルートの拠点、周辺への着地型観光ルートのターミナルとして機能する。

● 地域住民と観光客が楽しみ、交流する拠点

勝連城跡の価値を、地域住民や子どもたちがあらためて発見・確認できる活動を展開し、新たな地域づくりの拠点となる施設とする。
地域住民が施設の活動に参画し、観光客をもてなす、「うるま市の顔」となる施設とする。

4. 本事業の目的

勝連城跡は世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産の一つとして、琉球王国の歴史や文化を伝える大切な遺産である。平成 12 年の世界遺産登録以降、増加傾向にある来訪者や市民に向けて、勝連城跡の世界遺産としての価値を護りながら魅力を伝えとともに、その歴史的・文化的価値を活かした地域活性化を図るため、拠点となる施設として整備を行う。

なお、本事業は世界遺産である勝連城跡を含む勝連城跡周辺文化観光拠点整備事業のうち、拠点施設となる勝連城跡周辺文化観光施設の整備のあり方を検討し、基本計画としてとりまとめるものである。

5. 全体方針

(1) 基本理念

上位計画である基本構想及び全体の与条件などをふまえた具体的な検討に基づき、当計画施設の基本理念は基本構想を踏襲し、次のとおりとする。

勝連城跡の価値と魅力を高め、 来訪と交流を創出・促進する地域活性化拠点

- ・世界遺産である勝連城跡が有する歴史的・文化的価値を市民が改めて確認し、国内外に誇れる魅力として醸成するものとする。
- ・市民が主役となり、その魅力を最大限に活かした取り組みを展開することで、勝連城跡や当市の新たな魅力の創出を図り、国内外からより多くの人々の来訪や交流を促進させるとともに、持続的・発展的な地域活性化に寄与するものとする。
- ・当計画施設への来訪者を市内回遊へと誘導することで、賑い創出や事業の活性化など当市全域の観光振興、産業振興を図り、世界遺産・勝連城跡や、当市のブランド価値の向上に寄与するものとする。
- ・当市教育委員会が「史跡勝連城跡保存管理計画」（平成 28 年 3 月）にもとづき行う保存管理事業をふまえて、世界遺産・勝連城跡の価値を損なうことのないよう配慮し、その活用を行うものとする。

(2) めざす施設像

前述した基本理念に基づき、当計画施設がめざす施設像は次のとおりとする。

楽しみ、理解し、育むガイダンスセンター

①施設像

「楽しみ、理解し、育むガイダンスセンター」とは、地域活性化拠点として、当市の持続的な発展に寄与することをめざす施設である。さらに、勝連城跡に関連する知的資源を活用し地域活性化に寄与するため、当計画施設は、勝連城跡を中核として多様な歴史的・文化的な紹介を行う歴史・文化施設と、飲食・物販機能を有する物産・観光施設とで構成する文化観光施設とする。なお、具体的な施設像は次のとおりとする。

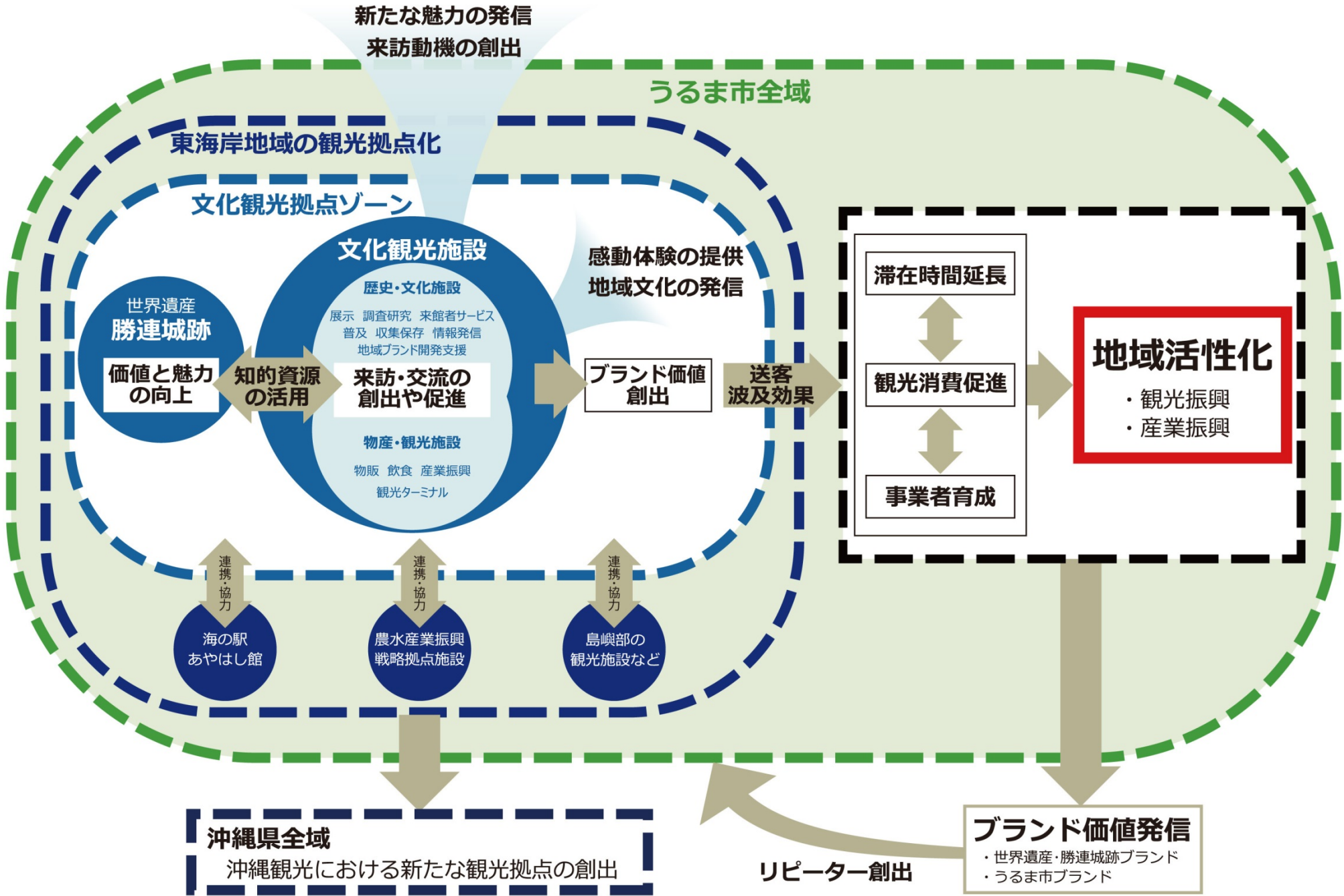
- ・世界遺産である勝連城跡の歴史的・文化的な価値を広く伝えるためのガイダンスセンターであるとともに、地域で育まれた新たな魅力を発信する当市のガイダンスセンターとする。
- ・勝連城跡のほか周辺の歴史や文化について、「楽しみ」ながら具体的な体験を通して「理解する」機会を提供し、市民はもとより国内外も含めたより多くの人々の興味や関心を引き出し、来訪動機の創出を図る施設とする。
- ・市民や来訪者がそれぞれの立場から、滞在時間を「楽しみ」、勝連城跡や当市への「理解」を深めることにより、勝連城跡やさらには当市への親しみや愛着を「育む」施設とする。
- ・「楽しみ」による人々の交流促進とともに、勝連城跡への「理解」を深めることにより、新たな魅力を「育む」施設とする。
- ・さらに、これらの取り組みを通して、次代を担う人材を「育み」、持続的・発展的な地域の活性化に寄与する施設とする。

②「楽しむ」「理解する」「育む」の考え方

勝連城跡や当計画施設に多くの人が訪れ、世界遺産としての価値について交流を通して理解することで、当市の新たな魅力創出を図る。そこで、当計画施設では「楽しむ」「理解する」「育む」の三つの視点を重視するものとする。

「楽しむ」	市民	・ 市民同士の交流促進や、地域の賑い創出を図ることにより、「行ってみたい」という来訪動機の創出につなげる。
	来訪者	・ 阿麻和利の物語による「わかりやすさ」や、勝連城跡の優れた景観を活かすことにより、来訪動機の創出につなげる。
「理解する」	市民	・ 世界遺産である勝連城跡の歴史や文化を通して、勝連地区及び当市への理解促進を図る。勝連城跡の魅力や価値を再確認することで、当市の新たな魅力の創出につなげる。
	来訪者	・ 勝連城跡や「琉球王国のグスク及び関連遺産群」への理解を深めることにより、勝連城跡や琉球王国、さらには、当市の魅力を実感する機会の創出につなげる。
「育む」	市民	・ 勝連城跡の魅力や価値の再確認を通して郷土への愛情や誇りを醸成するとともに、次代を担う人材を育むことにより、持続的・発展的な地域活性化に寄与する。
	来訪者	・ 市民との楽しみを通じた交流など、記憶に残る体験を通して勝連城跡や当市への深い関心を喚起させ、再訪動機の創出につなげる。

■当計画施設の概念図



(3) 基本的な考え方

「楽しみ、理解し、育むガイドンスセンター」をめざす当計画施設の基本的な考え方は次のとおりとする。

①歴史・文化施設としての基本的な考え方

世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産である勝連城跡について、史実性や学術性を重視するとともに「楽しむ」や「理解する」という視点を取り入れ、勝連城跡の顕著な普遍的価値の活用を図る。

a. 勝連城跡の魅力の発信と来訪動機の創出

楽しむ

「楽しむ」という視点を活用し、勝連城跡の魅力をわかりやすく親しみをもって紹介し、幅広い対象に対して勝連城跡への興味・関心を喚起させ、来訪動機を創出する。

対象	具体的な展開案
市民 ・ 来訪者	・ 第10代勝連城按司・阿麻和利にまつわる物語などを活用し、勝連城跡の歴史や文化、さらには中世の琉球王国の様子をわかりやすく紹介する。物語性をもって紹介することで、子どもから大人まで幅広い対象に対して勝連城跡への関心を喚起させ、来訪動機の創出を図る。 ・ 市民や来訪者が集い、交流する機会を創出し、話題性と賑いによる来訪動機の創出を図る。 ・ 勝連城からみた琉球王国など、新たな視点から琉球王国の歴史を紹介することで、沖縄観光のリピーター層などへの来訪動機の創出を図る。
来訪者	・ 世界遺産である勝連城跡がもつ文化的な価値とともに、海や緑に囲まれた優れた眺望や自然景観について重視し、その魅力を広く発信する。それにより、県内のみならず、国内外からの観光客に対して認知度を高め、来訪動機の創出を図る。

b. 勝連城跡の価値と魅力の向上

楽しむ

理解する

「楽しむ」という視点の活用により、勝連城跡の顕著な普遍的価値への「理解」を促進させ、世界遺産である勝連城跡の価値と魅力の向上を図る。

対象	具体的な展開案
市民 ・ 来訪者	- 世界遺産である勝連城跡の顕著な普遍的価値を、現代に伝わる真正性（Authenticity）などとあわせてわかりやすく紹介し、勝連城跡への理解を促進させるとともに、価値と魅力の向上を図る。 - 史実性や学術性を重視しながら、阿麻和利をテーマとする物語など楽しみの要素を取り入れることにより、歴史資料への関心が低い人々に対しても、勝連城跡の価値と魅力をわかりやすく紹介する。 - 当市の魅力創出につながる取り組みを行っている団体などと積極的な連携を図り、勝連城跡の魅力を高めるとともに、付加価値のある体験を提供する。
来訪者	「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の関連施設などとの連携により、各構成資産の概要やアクセスなどを紹介し、勝連城跡への訪問を付加価値のある体験として提供する。

②物産・観光施設としての基本的な考え方

世界遺産である勝連城跡の文化的価値や、類まれな自然景観を活用し、当市全域へと広がる新たな魅力を創出する。

a. 連携や協働による新たな魅力の創出

楽しむ

理解する

育む

市内事業者や関連施設などとの連携・協働のもと、「楽しむ」「理解する」「育む」視点を活用した勝連城跡や当市の新たな魅力の創出を図る。

対象	具体的な展開案
市民 ・ 来訪者	- 市内事業者などと連携や協働のもと、勝連城跡の文化的価値を活かした商品開発や、それに伴う人材育成などを行い、当市の新たな魅力を創出する。 - 市内関連施設などとの連携のもと、市内回遊を促進するコンテンツの開発など、市域全体の観光振興に寄与する。

③複合施設としての基本的な考え方

当市の地域活性化拠点として、勝連城跡の価値や魅力を最大限活用した取り組みを、歴史・文化施設と物産・観光施設が一体となり展開する。

a. 知的資源の集約と活用の一体的な展開

楽しむ

理解する

育む

歴史・文化施設に集約される世界遺産・勝連城跡などに関する知識や情報を、物産・観光施設において活用し、付加価値のある体験や独自性に富むコンテンツを提供する。

対象	具体的な展開案
市民	・市内事業者などとの連携による、勝連城跡の出土資料をモチーフとする商品やメニューの開発など、勝連城跡の文化的価値を活かした独自性のある魅力を創出し、産業振興や地域活性化に寄与する。
来訪者	・世界遺産に関連するテーマやコンセプトをふまえた付加価値の高い飲食・物販サービス、体験プログラムなどを提供し、高い満足感とともに勝連城跡や当市に対する興味・関心を喚起させる。

b. 持続的・発展的な地域の活性化に寄与する「人財」の育成

楽しむ

理解する

育む

勝連城跡や当市の魅力を来訪者に伝える「当市の顔」となる人材を育み、ほかにはない地域の魅力として磨き、再訪動機の創出や持続的な地域の活性化を図る。

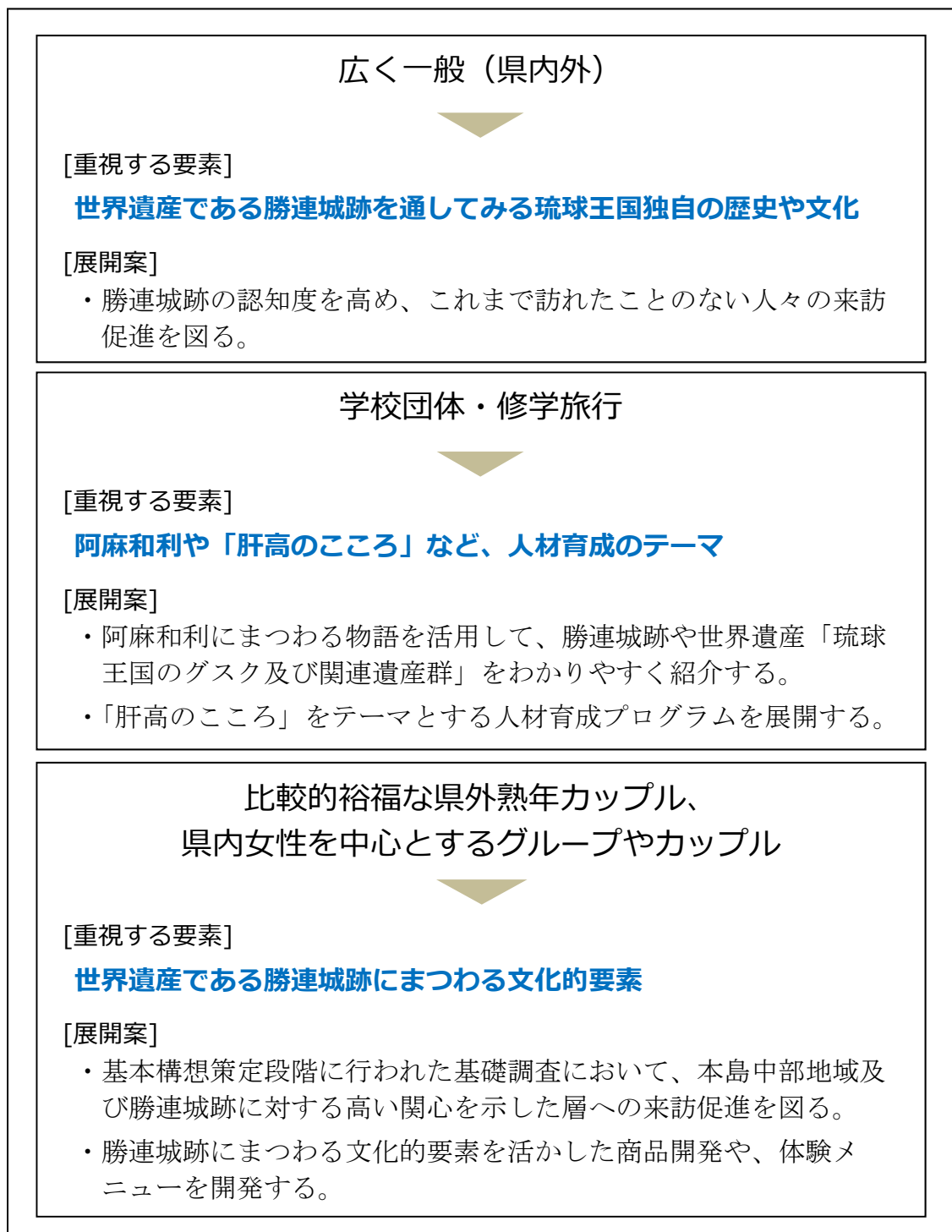
対象	具体的な展開案
市民	・勝連城跡への理解を深めるとともに、肝高のころなど、地域の魅力を再確認するきっかけを創出し、地域や当市への誇りや愛情を育む機会を提供する。 ・市民が主役となり勝連城跡の価値や魅力を高めることで、世代を越えた市民交流の機会を創出し、勝連城跡を通した生涯学習や生きがいづくりの促進を図る。
市民 ・ 来訪者	・既存事業との連携によるガイドや、勝連城跡や地域の魅力を伝える文化活動により、付加価値のある体験を提供するとともに、地域の文化振興や人材育成に寄与する。

(4) ターゲットの考え方

勝連城跡及び当計画施設は、沖縄本島の中部東海岸地域に立地している。観光において集客力の高い那覇地域や中部西海岸地域から離れていることから、来訪促進につながる積極的な集客を推進する。

基礎調査によりニーズの把握などを行い策定された基本構想などをふまえ、以下のようなターゲットを想定し、訴求要素の強化や広報などの展開を図る。

■想定するターゲット



（５）周辺施設との関係性

市内において当計画施設の類似する既存施設は以下のとおりである。各施設とのすみ分けや連携・協力により相乗効果や波及効果を創出し、市域全体の活性化に寄与するものとする。なお、下記の類似関連施設のほか、島嶼地域も含めた市内の観光施設などとも連携を図るものとする。

①連携・協力機関

連携や協力が想定される主な施設は以下のとおりである。

■主な類似既存施設

	主な連携想定施設
博物館施設	うるま市立石川歴史民俗資料館
	うるま市立与那城歴史民俗資料館
	うるま市立海の文化資料館
観光施設 ・ 物産施設	世界遺産勝連城跡休憩所（うるまーる）
	海の駅あやはし館
	うるま市農水産業振興戦略拠点施設（仮称）

②連携・協力の考え方

周辺施設や市内の既存施設とは、以下のような視点により連携・協力を行うものとする。

すみ分けによる相乗効果の創出

- ・特に物産・観光施設において、市内の既存施設とメインターゲットや販売品目のすみ分けを行い、市内全体としての相乗効果の創出を図る。

連携・協力による波及効果の創出

- ・歴史・文化施設では、市内の博物館施設との連携・協力により、正確な情報にもとづく事業活動を展開する。発掘速報展示などを通して勝連城跡の価値を伝える。

市内観光施設との連携・協力による賑わいや回遊性の創出

- ・市内で展開される着地型観光と連携し、島嶼部を含む市域全体での観光振興に寄与する。

6. 世界遺産・勝連城跡の価値と活用の考え方

前述のとおり当計画施設は世界遺産である勝連城跡の価値と魅力の向上を重視している。具体的な事業及び施設の検討に際し、世界に認められた勝連城跡の評価の基準を改めて確認し、それらが一層強化され、より大きな魅力となっていく方策を検討することとする。

(1) 世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」

勝連城跡を含む九つの遺跡及び記念物で構成される「琉球王国のグスク及び関連遺産群」は、顕著な普遍的価値を有する人類共通の遺産として、第24回世界遺産委員会（2000年）において世界遺産一覧表に記載された。

①「琉球王国のグスク及び関連遺産群」構成資産

■「琉球王国のグスク及び関連遺産群」構成資産

構成資産〔所在地〕	概要
な き じんじょうあと 今帰仁城跡〔今帰仁村〕	・13世紀頃、琉球王国成立以前の「三山時代」に築かれたとされる山北（北山）王の居城。
ざ き み じょうあと 座喜味城跡〔読谷村〕	・護佐丸が15世紀初頭に築いたとされ、軍事要塞としての特徴を残すグスク。
かつれんじょうあと 勝連城跡〔うるま市〕	・12世紀頃の築城とされ、大和系瓦の出土など首里城、浦添城など王城に匹敵する栄華を誇ったとされる。
なかぐすくじょうあと 中城城跡〔中城村〕	・14世紀後半に築城されたとされ、15世紀には護佐丸の居城となり、「護佐丸と阿麻和利の乱」の舞台ともいわれる。
し ゅ り じょうあと 首里城跡〔那覇市〕	・三山時代には中山王の居城とされ、また、琉球王国成立以降は王家の居城として、政治や軍事、王朝文化の中心を担った。
そ の ひ ゃんう た きいしもん 園比屋武御嶽石門〔那覇市〕	・琉球石灰岩で作られた石門。国王の外出時に安全を祈願した礼拝所。
たまうどうん 玉 陵〔那覇市〕	・16世紀に作られた琉球王朝の王族の陵墓。
しき ね えん 識名園〔那覇市〕	・18世紀に完成したとされる琉球王国の別邸。中国からの冊封使を招いた。
せーふあーう た き 斎 場御嶽〔南城市〕	・琉球王国最高の聖地であり、精神文化の象徴とされる。

②「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の評価基準と活用の視点

世界遺産の10の登録基準のうち「琉球王国のグスク及び関連遺産群」において認められた(ii)(iii)(vi)について、その評価基準に基づき、勝連城跡の価値や魅力を高めるための活用の視点を整理した。

出典：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟HP

「史跡 勝連城跡保存管理計画」(うるま市教育委員会、平成28年3月改訂)

登録基準(ii)とは	建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値感の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものである。
------------	--

基準(ii)
における評価

残存する記念工作物は、数世紀にわたって、琉球列島が東南アジア・中国・朝鮮半島、及び日本との間の経済的・文化的交流の中心としての役割を担っていたことを鮮明に証明している。

＜視点＞
交流・交易の歴史

中国や東南アジア、朝鮮半島や日本など、東アジア各地の品々が出土しており、ほかの地域との活発な交流や交易が行われていたことが推察される。そこで、勝連城跡の特徴である「交流・交易の歴史」を活用の視点として重視し、施設づくりに反映する。

登録基準(iii)とは	現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在(少なくとも希有な存在)である。
-------------	--

基準(iii)
における評価

琉球王国の文化は、特殊な政治的・経済的環境の下に進化・繁栄を遂げ、その結果、独特の性質をもつものとなった。

＜視点＞
建築を通して伝わる
固有の文化・伝統

丘陵地に立地することや琉球石灰岩を利用した石積遺構など、勝連城跡はグスクの建築的特徴を現代に伝えている。そこで、「建築を通して伝わる固有の建築文化や伝統」を活用の視点として重視し、施設づくりに反映する。

登録基準(vi)とは	顕著な普遍的価値を有する出来事(行事)、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある。
------------	--

基準(vi)
における評価

琉球王国の神聖なる遺跡群は、浸透した他の世界的な宗教(仏教)とも並行しつつ、現代にもその本質が継承された自然と祖先崇拝の固有の形態の希に見る事例であることを示している。

＜視点＞
固有の
伝統的精神文化

勝連城跡には城主を守るコバツカサ神を祀る「玉ノミウヂ御嶽」などの拝所があり、現在でも多くの人々が参拝に訪れている。そこで、「固有の伝統的精神文化」を活用の視点として重視し、施設づくりに反映する。

(2) 文化観光施設としての活用のあり方

世界遺産としての評価要素及び類似施設の傾向をふまえ、当計画施設は歴史・文化施設、物産・観光施設としての特性を活かし、これまでにない新しい施設のあり方をめざす。

①「旅の目的と楽しみ」を提供する世界遺産ガイドンスセンター

- ・遊び、楽しむことを通して、勝連城跡の価値や琉球、勝連の歴史への理解を深め、当市への関心の喚起を図る。そのため、来訪者のニーズに応えかつ高い満足度につながる物販・飲食機能を重視する。これらは施設の付帯機能ではなく、来訪促進につながる基本的な機能であるとする。また、拠点エリアの類い希な自然、阿麻和利と百度踏場のストーリーを活かした景観やイベントなどを積極的に実施、発信し、多くの人々を惹きつけ新たな交流を生み出す、生き生きと脈動する世界遺産ガイドンスセンターをめざす。
- ・施設内に限らず、勝連城跡の魅力を十分に体感できるよう、勝連城跡を臨む景観、また勝連城跡からの景観など、四季や時間帯による魅力の効果的な活かし方を提案する。また勝連城跡が建築物として伝える歴史や伝統、遺構内にある御嶽などがつたえる琉球の伝統的精神文化など、一見するだけではわからない情報やストーリーについて、来訪者が楽しみながら理解できることを重視する。来訪者が自ら写真を撮り旅の記憶と記録に残せるような多様なフォトスポット設置や地域の住民の語りによるガイドの展開など、個々の情報をより魅力的に伝えることを重視し、何度訪れても様々なストーリーに出会うことができる体感型の世界遺産ガイドンスセンターをめざす。

②うるま市に広がり、市民とともに活かす、地域文化の発信拠点

- ・当計画施設への来訪がゴールではなく、ここを拠点として当市全体に旅の道筋を広げていくことをめざす。勝連城跡を拠点とする地域回遊ルートを開発し、広がりのあるストーリー、情報の集約と発信を行う。回遊ルートは地域住民や事業者などと協働で持続的に開発し、市内での滞在時間の延長拡大、地域における波及効果に寄与する世界遺産ガイドンスセンターをめざす。
- ・地域で展開される文化活動と積極的に連動を図り、単に「見る」「知る」「学ぶ」だけではなく、地域住民が発信する情報を広く拡散・発信する拠点として機能する。それにより、地域住民、来訪者の様々な出会いや交流を促し、より深くオリジナリティのある理解、感動の体験などを提供する奥行きのある世界遺産ガイドンスセンターをめざす。

第2章 事業の展開

1. 当計画施設全体の事業活動

当計画施設では歴史・文化施設と物産・観光施設それぞれの特色を活かしながら、勝連城跡や当市の魅力を伝える多様な事業を展開し、訪れる人々に付加価値の高い体験や豊かな滞在時間を提供する。

2. 歴史・文化施設の事業活動

(1) 基本的な考え方

勝連城跡の価値と魅力を高める

- ・世界遺産である勝連城跡が有する顕著な普遍的価値を活用し、歴史・文化施設では、勝連城跡のみならず「琉球王国のグスク及び関連遺産群」全体としてとらえて、勝連城跡の価値や魅力を高めるとともに、地域活性化を図る取り組みを行う。

市内の文化資源に関する情報発信

- ・当市のガイドンスセンターとして、勝連城跡から波及する市域の文化資源に関する知識や情報を収集・活用することにより、当市全体へと広がる地域振興や観光振興に寄与する取り組みを展開する。

■歴史・文化施設の事業活動

事業活動は以下のとおりとする。

- ①展示活動
- ②普及活動
- ③情報発信活動
- ④調査研究活動
- ⑤収集保存活動
- ⑥来館者サービス活動
- ⑦地域ブランドの開発支援事業

(2) 事業活動の内容

①展示活動

a. 基本的な考え方

- ・阿麻和利の物語を活用することにより、史実性や学術性を重視しながらも、物語性を通して楽しみながら理解を深めることのできる紹介を行う。
- ・勝連城のグスクとしての特徴のほか、琉球王国の歴史や中世の東アジアの交易など、多様な視点から紹介する。
- ・「うるま市立海の文化資料館」など市内の博物館施設などや、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の関連施設などとの連携を図り、世界遺産である勝連城跡の幅広い情報収集とその紹介を行う。
- ・最も重要な資料は「勝連城跡」であるという視点にたち、勝連城跡の見学へと誘導するような、ストーリー性をもった情報提供を行い、施設内にこだわらない柔軟な活動を展開する。
- ・勝連城跡において推進されている発掘調査やその研究成果、そのほか関連する研究について紹介する。

b. 展示活動の展開（案）

- ・勝連城跡について基本的な情報をわかりやすく紹介する常設展示と多様なテーマにより展開する企画展示を行う。
- ・常設展示に関しては、短時間の滞在でも基本的な情報が伝わるよう、情報の内容を十分に検討した上で、来館者の年代や言語をふまえ、より効果的な見せ方を工夫する。
- ・企画展示に関しては、ほかの博物館や施設などからの資料の借用を行い、幅広いテーマで来館促進につながる展示を行う。また勝連城跡において展開されている発掘調査の結果公開など、より深い理解につながるテーマでの展示を行う。
- ・映像の上映や短時間の演劇プログラムなどの公演ができるミニ・シアターを設け、エンターテインメント性のある体験として勝連城跡や当市の魅力を紹介し、リピーターの創出につなげる。

c. 展示の基本的な考え方

展示構成の基本的な考え方は次のとおりとする。

わかりやすく伝え興味を掻き立てる物語性のある展示

- ・史実性や学術性を重視し、出土資料などをまじえながら、勝連城跡の歴史や価値を物語として伝える。「おもしろさうし」などに残る阿麻和利の物語を活用するなど、物語性のある展示とすることで、市民及び観光客の興味や関心を掻き立てるものとする。

勝連城跡に「最初に出会う場」として「楽しく」、「わかりやすく」を重視する展示

- ・世界遺産・勝連城跡のガイダンスセンターとして、国内外から多様な人々が訪れる場所である。知識や興味の度合いが異なる来訪者に対して、勝連城跡の歴史や価値を伝えるため、「楽しい」と「わかりやすい」の二つの視点を重視し、印象的でかつ全体像を短時間で理解できる展示とする。
- ・より深い理解へと導く詳細な情報は、情報端末などにより、得たい情報を利用者自らが選択できるしくみを補完し、多様なニーズに応えるようにする。さらに、多言語対応を充実させ、海外からの来訪者に対しても、詳細な情報を伝える展示とする。

「勝連城跡」の見学へと導く展示

- ・「最も重要な資料は勝連城跡である」として、施設外にある勝連城跡へと誘導する情報提供を行う。また、観光での立寄りで訪れた人々などに対して、「世界遺産・勝連城跡」がもつ価値をより深く伝えるための展示を行う。
- ・これらは施設内での基本的、全体的な情報提供と合わせ、勝連城跡現地において案内ガイドや情報端末による情報提供のしくみをより充実させ展開する。現地においては、史跡地に残る御嶽や拝所など琉球ならではの伝統文化についても紹介を行い、勝連城跡を通して「世界遺産」としての価値が体感できるようにする。

未来への継承につながる展示

- ・市民にとっては郷土への愛情や誇りを育むきっかけとなる展示に、また、来訪者にとっては勝連城跡や当市に対する関心を育む展示とする。そのため、館内ガイドのほか地域住民との交流など、普及活動による情報補完が可能となる展示とする。

d. 展示のメインテーマ

展示のメインテーマは次のとおりとする。

メインテーマ

世界遺産・勝連城跡への扉

＜メインテーマの考え方＞

勝連城跡は世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産として、各地の有力な按司たちが群雄割拠した琉球王国の黎明期を物語る重要な遺跡である。

また、勝連城跡の発掘資料は中世の勝連や琉球が東アジアの交易における要所であったこと、さらに阿麻和利の時代には勝連が首里をしのぐ隆盛を極めていたことを伝えている。

そこで、「おもろさうし」などに描かれる阿麻和利像を効果的に活用しながら、勝連城の歴史や価値をドラマティックに伝えることにより、勝連城跡のガイダンスセンターとして中世の勝連や勝連城へのイメージを膨らませ、世界遺産・勝連城跡への興味や関心を喚起させるものとする。

さらに、当市のガイダンスセンターとして、阿麻和利に象徴される「肝高のころ」を今に伝える取り組みや、沖縄の美称であり珊瑚の島を意味する「うるま」という地名が印象的に伝える豊かな自然など、勝連や琉球王国の文化が息づく多様な地域資源を、当市の魅力として紹介するものとする。

＜テーマのねらい＞

- ・世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の価値や全体像を概観し、構成資産としての勝連城跡を位置づけるとともに、勝連城跡全体を俯瞰する。
- ・阿麻和利の物語を通したドラマティックな視点を介して、勝連城跡の価値をわかりやすく紹介する。
- ・勝連城跡や「肝高のころ」をはじめとする文化、さらに、恵まれた自然など、当市の魅力を伝える。

e. 展示構成（案）

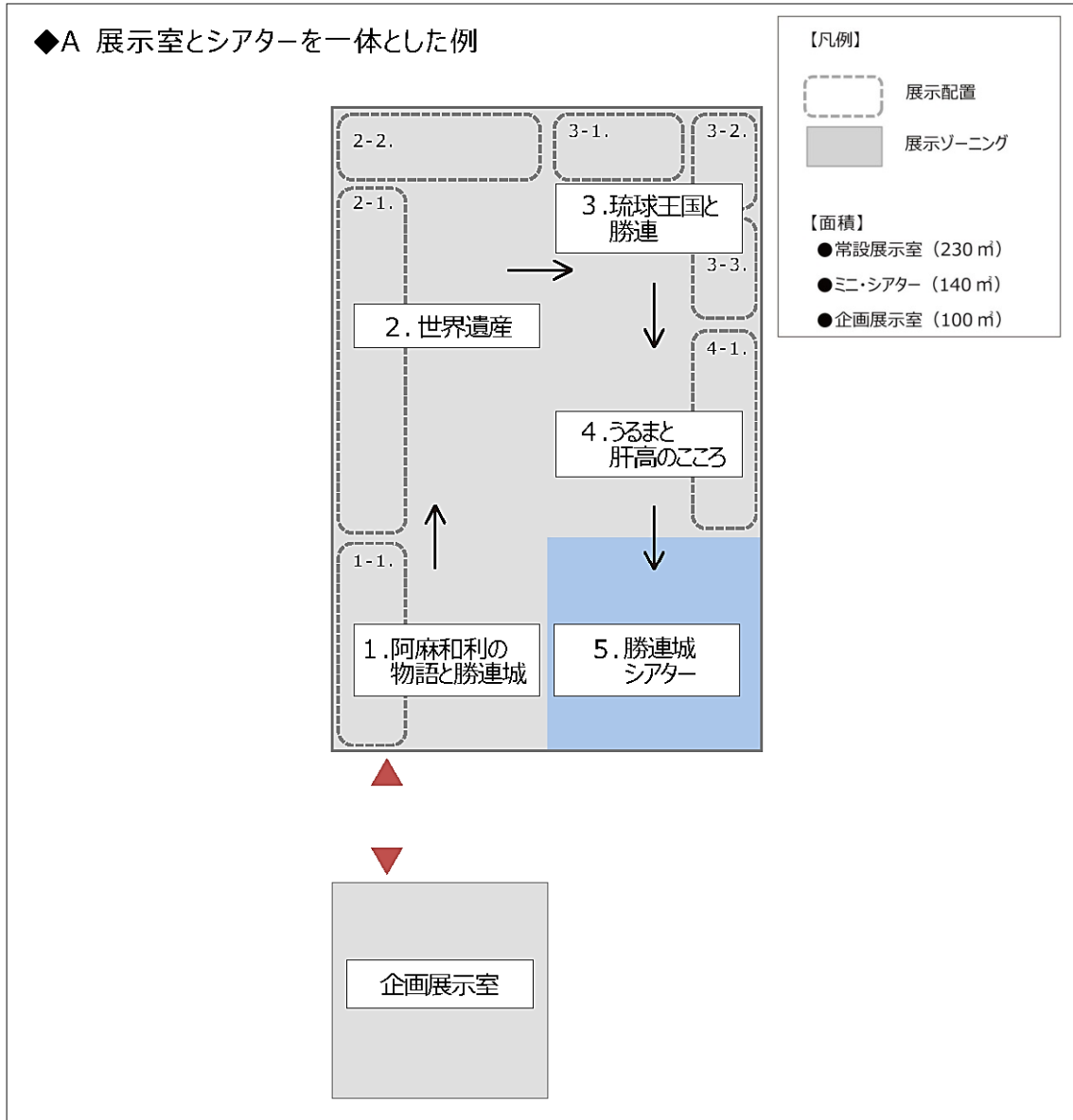
展示構成は次のとおりとする。

大項目	中項目	小項目	展示内容	主な展示資料	演出効果
1. 阿麻和利の物語と勝連城	1-1. 「おもろさうし」と勝連城跡	1-1-1. 肝高の阿麻和利と勝連城跡	・「おもろさうし」の中から阿麻和利を讃える歌謡（阿麻和利のあおりやへかふし）と、勝連城跡全景の大きく美しい画像を用いた導入パネルを用いて、美しい歌謡とともに「肝高の阿麻和利」のイメージを強く印象づけるとともに、勝連城の世界へと引き込む。	・演出グラフィック	・美しい自然景観と勝連城跡を印象づける空間とする。
2. 世界遺産	2-1. 世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群王国」	2-1-1. 構成資産の概要	・九つの構成資産の位置関係や、それぞれの歴史的な背景など概要を紹介し、世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」を概観する。	・解説グラフィック	
		2-1-2. 世界遺産としての価値	・世界遺産の登録基準（ii）（iii）（vi）の説明とともに、「世界遺産一覧表記推薦書『琉球王国のグスク及び関連遺産群』」（1999年6月提出）から資産の価値証明について紹介する。顕著で普遍的な価値について紹介し、印象に残るパネルとして演出する。	・解説(演出)グラフィック	
	2-2. 世界遺産・勝連城跡	2-2-1. 勝連城跡とは	・三の曲輪の柵列遺構や、石積遺構など、グスクの築造における土木技術の変遷と発展とともに、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の中では最も築造年代が古いグスクであることや、城塞としての勝連城跡を紹介する。	・実物資料（大和系瓦など） ・解説グラフィック	・世界遺産としての価値をわかりやすく体感できる演出で構成する。
		2-2-2. 建築	・姫路城のほか、アジアやヨーロッパなどほかの世界遺産における城郭を模型により比較展示し、沖縄のグスクの特徴を明確に伝える。 ・琉球石灰岩による布積の一部を再現するなど、演出とともに石積の特徴を体感できる紹介を行う。	・当時の人々の様子の再現も含めたグスクの模型（※3-2と連携） ・解説グラフィック ・演出グラフィック	
		2-2-3. 文化	・勝連を守護する大きな霊石をご神体とし、地域の繁栄を祈願する「玉ノミウヂ御嶽」や、初穂や豊作を祈願する年中行事ウマチーの拝所「肝高の御嶽」など、勝連城跡における御嶽や拝所などを紹介し、自然と祖先崇拜などの信仰の場としてのグスクを紹介する。	・御嶽など模型 ・解説グラフィック	
	3-1. 琉球王国	3-1-1. 琉球王国の歴史	・三山時代から琉球処分頃までの琉球王国の歴史を概観するとともに、有力者がしのぎを削った時期や、琉球が東アジアにおける交易の要所を担っていた時代を印象づける。	・年表 ・解説グラフィック	
		3-1-2. 琉球王国の称号	・按司などの称号や神女組織などについて紹介する。	・解説グラフィック	

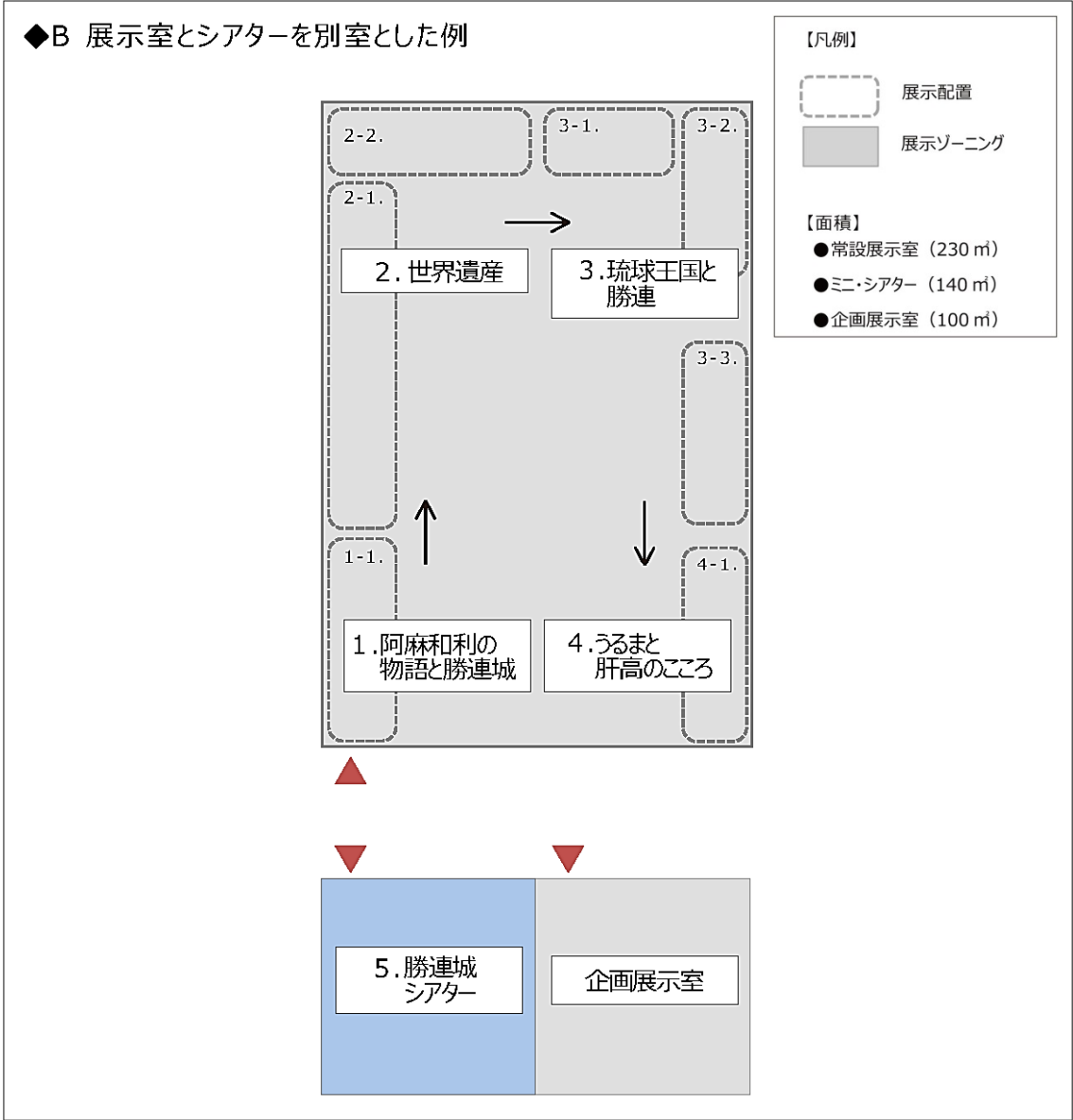
大項目	中項目	小項目	展示内容	主な展示資料	演出効果
	3-2. 群雄割拠の時代と阿麻和利	3-2-1. 群雄割拠の時代	・勝連城、首里城、中城城の位置関係をジオラマにより表現し、琉球王国の黎明期において有力按司たちが群雄割拠した時代を印象的に紹介する。	・ジオラマ（グスク） ・演出パネル	・人々の営みを再現したグスクや交易の船の往来を展示空間内に再現した体験空間とする。
		3-2-2. 勝連城按司・阿麻和利	・首里をものしのご栄華を誇っていた勝連と、その時代の按司・阿麻和利について、東アジアの各地からもたらされた発掘資料を宝として美しく展示し、当時の勝連城の隆盛を印象づける展示とする。	・ジオラマ（交易船） ・実物資料(元青花など) ・演出パネル	
	3-3. 阿麻和利像	3-3-1. 歴史書にみる阿麻和利	・「おもろさうし」などに描かれる阿麻和利像や、「護佐丸と阿麻和利の乱」における阿麻和利像など、多様な視点からの阿麻和利像を紹介する。	・演出パネル ・歴史書のレプリカ（「おもろさうし」など）	
		3-3-2. 現代の阿麻和利	・組踊「二童敵打」など長く逆臣として描かれてきた阿麻和利像に対して、伊波普猷に代表される現代の研究により、阿麻和利像の変化を紹介する。	・解説グラフィック ・演出グラフィック	
4. うるまと肝高のころ	4-1. 珊瑚の島	4-1-1. うるま	・「サンゴの島」や「沖縄」を美称する古語くうるまについて、市内の美しい景観の画像とともに印象的に紹介する。 ・9千年以上前の土器や石器が発掘された「藪地洞穴遺跡」や勝連城跡以外のグスクなど、市内の遺跡の紹介とともに、古くから人々が暮らしていた地域の特徴を紹介する。	・演出グラフィック	・当市の美しい景観や文化的な魅力を印象的に感じる空間とする。
	4-2. 肝高のころ	4-2-1. 肝高のころ	・美しい映像により現代版組踊「肝高のあまわり」など、現代に受け継がれる「肝高のころ」の文化について紹介する。	・映像	
5. 勝連城シアター	・文化財としての価値とともに、祈りの場としての勝連城跡について紹介する。理解を深めてからグスクの見学に導くことで、豊かな体験につなげるほか、天候や体力的な理由など、見学が困難な場合にも対応した紹介を行う。			・映像	

f. 展示配置図・展示ゾーニング例

展示の配置およびゾーニングは大きく下記のような2例が想定される。今後、それぞれのメリット・デメリットをふまえて、管理運営のあり方や幅広い運用の可能性とともに検討する。



A		
整備 (ハード)	メリット	・展示からミニ・シアターへの誘導がしやすい。 ・一体的に印象的な展示空間を創出することができる。
	デメリット	・音響など展示鑑賞の妨げにならないよう工夫が必要となる。 ・ミニ・シアター前のたまりを想定した利用動線を設ける必要がある。
運営 (ソフト)	メリット	・チケットのもぎりなどの人員配置を最小限に抑えることができる。
	デメリット	・ミニ・シアターのみを利用した有料プログラムの実施が難しい。



B		
整備 (ハード)	メリット	・音響など展示鑑賞の妨げになりにくい。
	デメリット	・展示室からミニ・シアターへの誘導を工夫する必要がある。
運営 (ソフト)	メリット	・ミニ・シアターのみを利用した有料プログラムの実施が可能となる。
	デメリット	・展示室とミニ・シアターのそれぞれにチケットのもぎりを配置する必要がある。

②普及活動

a. 基本的な考え方

- ・展示内容を補完し利用者の理解を深めるための歴史講座や、当計画施設が設置される拠点エリア全体を対象とした自然観察ガイドツアーなど、利用者の年齢や関心、滞在時間をふまえた多様なプログラムを展開する。また、修学旅行などの団体誘客につながる教育プログラムや観光体験プログラムを実施する。
- ・勝連城跡をテーマとする演劇プログラムのほか、エイサーや獅子舞など地域の祭りや伝統行事を活かしたイベントを定期的に行い、楽しみを通じた豊かな体験を提供する。
- ・勝連城跡を中心とした「まちまーい」や、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産を巡るツアーなど、勝連城跡を拠点に市内や市外へと広がる回遊ルートを創出し、来訪促進を図る。
- ・うるま市史跡ガイドなど現在行われている歴史案内ガイドと連携し、グスクなどに関心の高い人々を対象とした育成を図ることで、対話を通して勝連城跡のストーリーを紹介する取り組みを展開する。
- ・市内の学校教育機関などとの連携を図り、地域の歴史や文化、自然景観などへの理解を深める教育プログラムなどを展開し、次代の当市を担う人材を育成する。
- ・勝連城跡や当市にまつわる多様な情報を、利用者のニーズに合わせて紹介することのできる人材を育成する。

b. 普及活動の展開（案）

普及活動の展開案は次のとおりとする。

活動名	内容
展示ガイド	・歴史・文化施設の館内で、勝連城跡の見学をより豊かな体験と するため、ストーリー性をもって展示資料などの紹介を行う。
講座・レクチャー	・勝連城跡の歴史や文化、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」 全体についての理解を深める講座を開講する。
勝連城跡ガイドツアー	・グスクや勝連城の建築的な特徴について、現地で実際に目にしながら わかりやすく伝える。 ・拝所や御嶽など、現代に受け継がれる琉球の伝統的な精神文化 を紹介する。
外国語対応ガイド	・展示や勝連城跡について多言語で紹介するプログラムの整備と 担い手の育成を行う。 ・専門性の高いガイドプログラムは有料とすることで、ガイドの レベル向上・維持や担い手のモチベーションの向上を図る。
勝連城跡や阿麻和利をテーマとする文化活動の上演	・「肝高の阿麻和利」など、勝連城跡や阿麻和利をテーマとする 文化活動の上演を行う。
子どもによる勝連城跡ガイド	・当市の子どもたちが郷土学習やキャリア教育の機会として、自 ら調べ、紹介パンフレットを作成し、ガイドを行う。 ・子どもたちのガイドとしての育成を館で推進し、その発表の場 として来訪者の案内を行う。ガイドは登録制とするなど、安全 や活動環境などをふまえ検討する。
歴史探訪プログラム 「まちまーい」	・勝連城跡や市内の様々な遺跡などを巡る観光ルートを開発。利 用者の希望時間に柔軟に応えるため、多彩なコースを設定する。 ・「うるま市史跡ガイドの会」などと連携し、対話により勝連城跡の ストーリーを紹介する。
世界遺産周遊ルート	・「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産を、歴史ストー リーとともに周遊するルートを開発する。 ・「阿麻和利と護佐丸ルート」や「勝連按司・阿麻和利誕生ルート」 など、歴史上の出来事とともに県内周遊を楽しめる観光ルートを開 発・蓄積することで、来訪者の滞在時間に合わせた多様な楽し み方を提供するとともに、再訪動機の創出を図る。
教育連携プログラム	・市内教育機関などと連携し、当計画施設の特性を活かした職業 体験など体験学習プログラムを実施する。
人材育成プログラム	・勝連城跡のみならず、地域の文化資源に関する多様な情報を紹 介する専門性の高い人材の育成を行う。
肝高っこプログラム	・当市の子どもたちが取り組む地域の文化活動への参加体験プロ グラムを実施する。 ・市外や県外の子どもたちを受け入れ、地域の文化活動への参加 を通して、地域を誇る心を体験する。

③情報発信活動

a. 基本的な考え方

- ・展示では紹介しきれない多様な情報について、美しくわかりやすい映像や画像を用いながら、多言語による紹介を行うための情報システムを構築するなどし、より深い理解につなげる。また、映像コンテンツを効果的に活用し、楽しみながら具体的な体験を通じた理解につなげる。
- ・施設内の情報端末に限らず、アプリケーションソフトなどを開発し、来訪者自身の情報端末を用いた利便性の高いシステムを構築する。
- ・展示や館内情報のほか、市内の文化資源や観光資源に関する情報を紹介するアプリケーションソフトを開発し、市内の回遊促進につなげる。

b. 情報発信活動の展開（案）

情報発信活動の展開案は次のとおりである。

活動名	内容
世界遺産コンシェルジュ	・「琉球王国のグスク及び関連遺産群」のコンシェルジュデスクとして勝連城跡のほか構成資産の情報にも通じた人材を育成・配置する。世界遺産の概要や各構成資産へのアクセス、勝連城跡との関係性、周辺の観光スポットに関する情報を提供する。 ・勝連城跡はもとより世界遺産全体としての来訪促進、PRなどの中核として機能する。
多言語解説アプリケーション開発	・英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語など多言語により勝連城跡を歴史ストーリーとともに紹介するアプリケーションを整備し、音声のほか関連資料などの画像も紹介する。
公式ホームページ・ブログ・SNS	・公式ホームページのほか、ブログやSNS※を開設する。各コンテンツの特性を活かし、親しみのある情報や、リアルタイムの情報などを随時発信する。
広報・PR	・時節ごとにテーマやメインターゲットを決め、効果的なPR活動を行う。
市内周遊アプリケーション開発	・勝連城跡や市内遺跡のほか、周辺の観光スポットなどについて、回遊ルートとともに紹介するアプリケーションを整備する。

※SNS:ソーシャルネットワーキングサービス(social networking service)の略称。人と人との交流を促進し、社会的ネットワークを構築するWEB サイトのこと。

④調査研究活動

a. 基本的な考え方

- ・世界遺産である勝連城跡について、琉球王国全体や東アジアにおける交易などを視点とする研究を行い、展示や普及活動などを通して、世界遺産としての価値の向上と理解促進につなげる。
- ・「琉球王国のグスク及び関連遺産群」関連施設などと幅広い連携構築を図り、調査研究の推進を図る。

b. 調査研究活動の展開（案）

調査研究活動の展開案は次のとおりである。

活動名	内容
世界遺産コンシェルジュ	・ 前述の③のb. 情報発信活動の「世界遺産コンシェルジュ」の展開を図るため、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産に関する調査研究を推進する。
協働調査研究	・ 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」関連施設や研究機関などと連携を図り、勝連城跡の調査研究活動を行う。 ・ 研究成果を連携機関と協働し公表する。
文化資源データベース	・ 市内の有形・無形の文化財をデータベース化し、地域資源として活用しやすい環境を整備する。 ※ 当市文化課との連携し効果的に推進する。
発掘資料のデジタルアーカイブ化	・ 地域ブランドの開発に活用するため、発掘資料のデジタルアーカイブ化を行う。 ・ 資料の文様や生産地、年代などを公開し、地域の歴史を物語る文化資源として活用しやすい環境を整備する。

⑤収集保存活動

a. 基本的な考え方

- ・ 当計画施設は勝連城跡のガイダンスセンターであることから、展示と普及活動、情報発信に重点を置くこととする。そのため、施設規模などをふまえ、勝連城跡からの発掘資料や埋蔵文化財などを総括的に収集保存するための収蔵庫は設けず、館内の展示に供するものの保管のための収蔵庫を設けることとする。なお、収蔵施設に関しては、資料の特性などをふまえ、当市内において別途検討を行う。

⑥来館者サービス活動

a. 基本的な考え方

- ・当計画施設を訪れる人々が豊かな時間を過ごすための快適なサービスを提供する。
- ・飲食機能やショップなどの物販機能は、物産・観光施設が担うものとし、歴史・文化施設内には設けない。

b. 来館者サービスの展開（案）

来館者サービスの展開案は次のとおりである。

活動名	内容
インフォメーション	・館内や勝連城跡の案内や、市内情報、タクシーサービスの紹介などを行う。
発券	・勝連城跡及び歴史・文化施設の入場チケットを販売する。 ※券売機やPOSシステムなどを検討。
多言語対応	・英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語など多言語のガイドマップを整備する。
バリアフリー対応	・ベビーカーや車いすの貸出を行う。
ユニバーサル対応	・筆談による案内や、点字によるガイドマップを整備する。
便益施設	・休憩コーナー、男・女トイレ、多目的トイレや授乳室、コインロッカーなどを整備する。 ・無料Wi-Fi やコンセントなど、インターネット環境を整備する。

⑦地域ブランドの開発事業

a. 基本的な考え方

- ・物産・観光施設と一体的な施設として来訪者をもてなすため、また勝連城跡周辺文化観光施設として付加価値の高いサービスを提供するため、物産・観光施設におけるメニューや商品展開などにおいて、勝連城跡に関する情報やモチーフが効果的に活かされるよう、企画開発において連携を図る。
- ・勝連城跡や周辺の文化資源に関する情報を活用し、勝連城跡を拠点とする「まちまーい」や、ストーリー性をもった歴史探訪プログラムを展開し、当市全域に広がる回遊ルートを創出する。
- ・野外イベントなど、勝連城跡や周辺の自然景観を活かしたプログラムを展開し、ほかにはない独自性の高い体験を提供する。

b. 地域ブランドの開発事業の展開（案）

地域ブランドの開発事業の展開案は次のとおりである。

活動名	内容
ブランドを活かした商品、メニュー開発企画	・勝連城跡、阿麻和利と百度踏揚、発掘資料（元青花など）を活かした商品開発、メニュー開発など。
回遊ルートの開発	・地域住民や事業者などと連携・協働し、回遊ルートの開発を行う。 ・各ルートにおいて伝える情報や提供できるサービスを明確にし、時間や移動のしやすさなどの視点で整理・分類し、来訪者のニーズに応えられるようにしておく。情報は随時見直しを図り、正確かつ新鮮なルートの整備と発信を行う。
屋外を活かしたイベントの企画	・屋外スペースや勝連城跡を舞台とするイベントの企画を行う。 ・観光シーズンの繁閑をふまえ、来訪者が落ち込む時期にはよりPR効果の高い企画、繁忙期には大きな混雑を生じさせない企画など、年間の事業計画及びPR戦略に基づき、専門事業者などと連携して効果的な企画を行う。

3. 物産・観光施設の事業活動

(1) 基本的な考え方

物販・飲食事業の重視による「楽しみ」の提供

楽しむ

- ・来訪者に対して、世界遺産・勝連城跡の歴史的、文化的価値を「楽しみ」を通した付加価値の高い体験として提供するために、物販事業や飲食事業を重視する。
- ・具体的には当計画施設や当市での体験を思い出として持ち帰ることのできる独自性のある商品の提供や、美しい景観を活かしたくつろぎの時間とともに提供する飲食などの充実を図り、利用者の満足度の向上につなげる。

「理解する」ことで実現する感動体験の提供

理解する

- ・歴史・文化施設と物産・観光施設とが密接に連携しながら商品開発を行い、世界遺産・勝連城跡の歴史的・文化的価値を最大限に活用した独自性の高い商品を提供する。

独自性ある商品の開発に向けた産業振興機能の重視

育む

- ・世界遺産・勝連城跡のブランド価値を活かした商品開発のため、市内の工芸従事者や事業者の育成支援などを行う産業振興機能を重視する。

市域への波及効果をもたらす観光ターミナル機能の重視

- ・当計画施設の利用者を、島嶼部を含む市内各地に送客する観光ターミナル機能を整備する。市域に広がる多様な観光資源などとネットワークの構築を図り、当市全体への経済的な波及効果の創出に寄与する。

市域への波及を目的とした事業の展開

- ・自律的かつ持続的な運営を前提とし、当計画施設内でのみ収益をあげることを目的とはせず、島嶼部を含む市域全体に波及する観光振興・産業振興により地域活性化を図ることとする。

■物産・観光施設の事業活動

事業活動は以下のとおりとする。

- ①物販事業
- ②飲食事業
- ③産業振興事業
- ④観光ターミナル事業

(2) 事業活動の内容

①物販事業

a. 基本的な考え方

勝連城跡や当市の魅力を「楽しい」思い出とともに共有できる商品の提供

- ・来訪者が当計画施設や世界遺産・勝連城跡などを通した「楽しみ」の体験を思い出として持ち帰ることのできる商品を提供する。
- ・世界遺産・勝連城跡の価値や魅力を印象づける付加価値の高い商品を提供する。

既存施設とのすみ分けを考慮したオリジナル商品の提供

- ・海の駅あやはし館や農水産業振興戦略拠点施設（仮称）など既存施設が取り扱う商品とのすみ分けにより、当計画施設では観光客をメインターゲットとした土産用の箱物菓子や、勝連城跡や当市、沖縄県の文化を感じさせる工芸品を中心としたオリジナル商品を提供する。

産業振興事業との連携

- ・市内の工芸従事者や事業者などと積極的に連携し、市内の産業振興に寄与しながら独自性の高い商品の開発を行う。

事業の計画性や効率性をふまえた商品展開

- ・販売にあたり商品を絞り込むことで、運用面で効率的・効果的に行うこととする。

②飲食事業

a. 基本的な考え方

旅の目的の一つとなるその土地ならではの食の体験

- ・地域の農水産物を中心とする販売事業の展開を予定している農水産業振興戦略拠点施設（仮称）と連携し、来訪者がもつ訪れた土地ならではの「食」への期待に対応した食の体験を提供する。

歴史や文化を活かした付加価値の高い食の体験

- ・来訪者が沖縄に対して抱く「伝統的な食文化のイメージ」を活用し、琉球時代や大航海時代を彷彿とさせる東アジア諸国などのテーマを取り入れながら、勝連城跡やその歴史的背景を想起させる施設全体への満足度につながる食の体験を提供する。

事業の計画性や効率性をふまえた商品展開

- ・ドリンクやデザート、単品のフードメニューなど、昼食や喫茶利用を中心としたメニューに絞り込み、効率的・効果的な運用とする。

③産業振興事業

a. 基本的な考え方

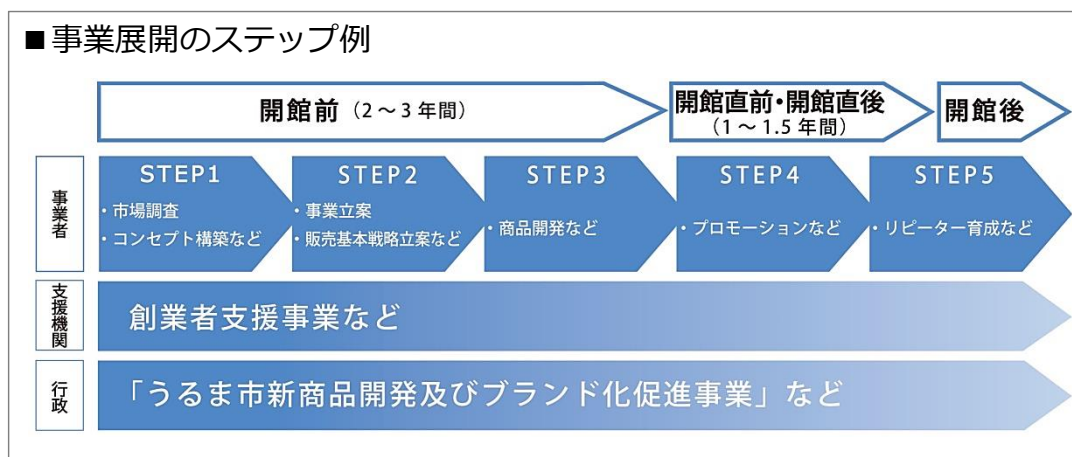
地域振興に寄与する人材育成支援及び販売促進支援

- ・基本構想において物産村機能として検討されてきた施設機能を、独自性のある商品開発や、それに必要な人材の育成を目的とする産業振興事業として展開する。
- ・市内の事業者や工芸従事者による付加価値の高いオリジナル商品の開発や、その販売をめざす人材の育成機能を持たせる。

行政や支援機関との連携による商品開発

- ・当計画施設の開館前から、事業者や行政、支援機関（商工会など）などが密接な連携を図りながら商品開発を行い、段階的に事業主体を民間事業者に移行させていくものとする。なお、当市の産業振興の観点から、当計画施設の運営事業者選定までに商品開発を行い、開発商品の販売を運営条件に含めることも検討する。

■事業展開のステップ例

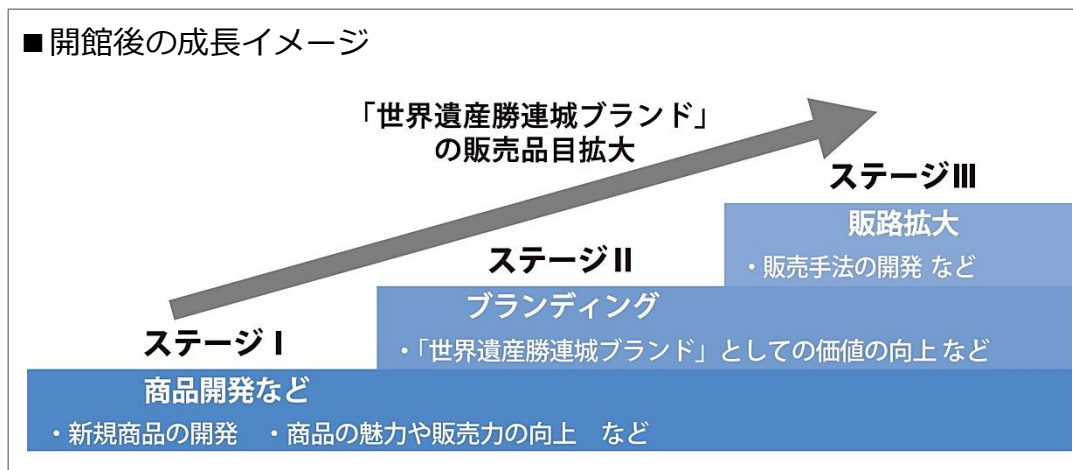


■連携や支援が想定される主な事業者

市内に活動拠点を置くガラス工芸や、陶芸、染織、紅型などの品目を扱う工芸作家や工房、また、食品・菓子製造事業者などが想定される。

b. 産業振興事業の展開例

チャレンジショップ※の出店や試作品のテスト販売、工芸品やクラフト品の実演即売や製作体験、地元の食材を活かした実演即売、調理試食体験などを展開する。



※チャレンジショップ:新規開業をめざす人を対象とした人材育成事業の一つ。開業準備として一定期間空き店舗などを貸し出し、独立に向けた経営ノウハウの習得や消費者の反応を直に体験する機会を提供する。

④観光ターミナル事業

a. 基本的な考え方

来訪者を市内全域へ送り出すポンプ機能を重視した観光ターミナル

- ・当計画施設への来訪者を市内各地の文化施設や観光拠点などへ送客し、市域全体での観光振興や経済振興などへと波及させる機能を備える。
- ・当市における観光拠点の一つとして、市内の観光地や観光プログラムの紹介、市内で展開される着地型観光商品の販売、さらに、観光地や観光プログラムの送迎車への乗り換えなどの機能を展開する。

中部東海岸地域全体を視野に入れた観光誘客

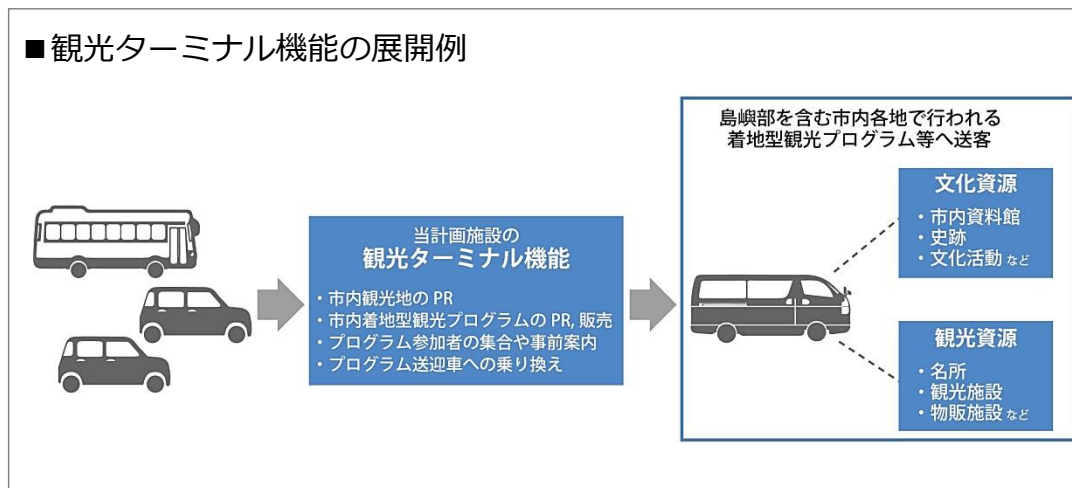
- ・「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産である中城城跡を有する中城村など、近隣の自治体との連携・協力も活用し、中部東海岸地域全体を視野に入れた観光誘客をめざす。

官民連携による持続的・発展的な推進体制の構築

- ・より高い効果をもたらすために、日本版DMOもしくはDMO的視点に基づき事業展開を行う。そのため行政や支援機関などとの密接な連携を図ることとする

b. 観光ターミナル機能の概要

当計画施設を訪れる県内外・国内外の来訪者を市内各地へ送客することにより、市民と来訪者との交流促進や、市内事業者へ経済的な波及を行き渡らせるポンプ機能とする。



c. 観光ターミナル事業の展開のあり方

観光地経営的な視点による取り組みを行い、当計画施設のみならず島嶼部を含む市内各地や、中部東海岸地域をも視野に入れた取り組みを展開する。そのためには、DMO的視点に基づき戦略的な事業の推進、また、多様な機関とのネットワーク構築などを行い、着実な観光振興につなげる取り組みを展開することとする。

[補足情報]

◆日本版DMOの展開

地域観光の推進組織であり、欧米の観光推進組織DMOの考え方や機能を、日本の風土や文化にあわせた形で展開するというのが日本版DMO※である。

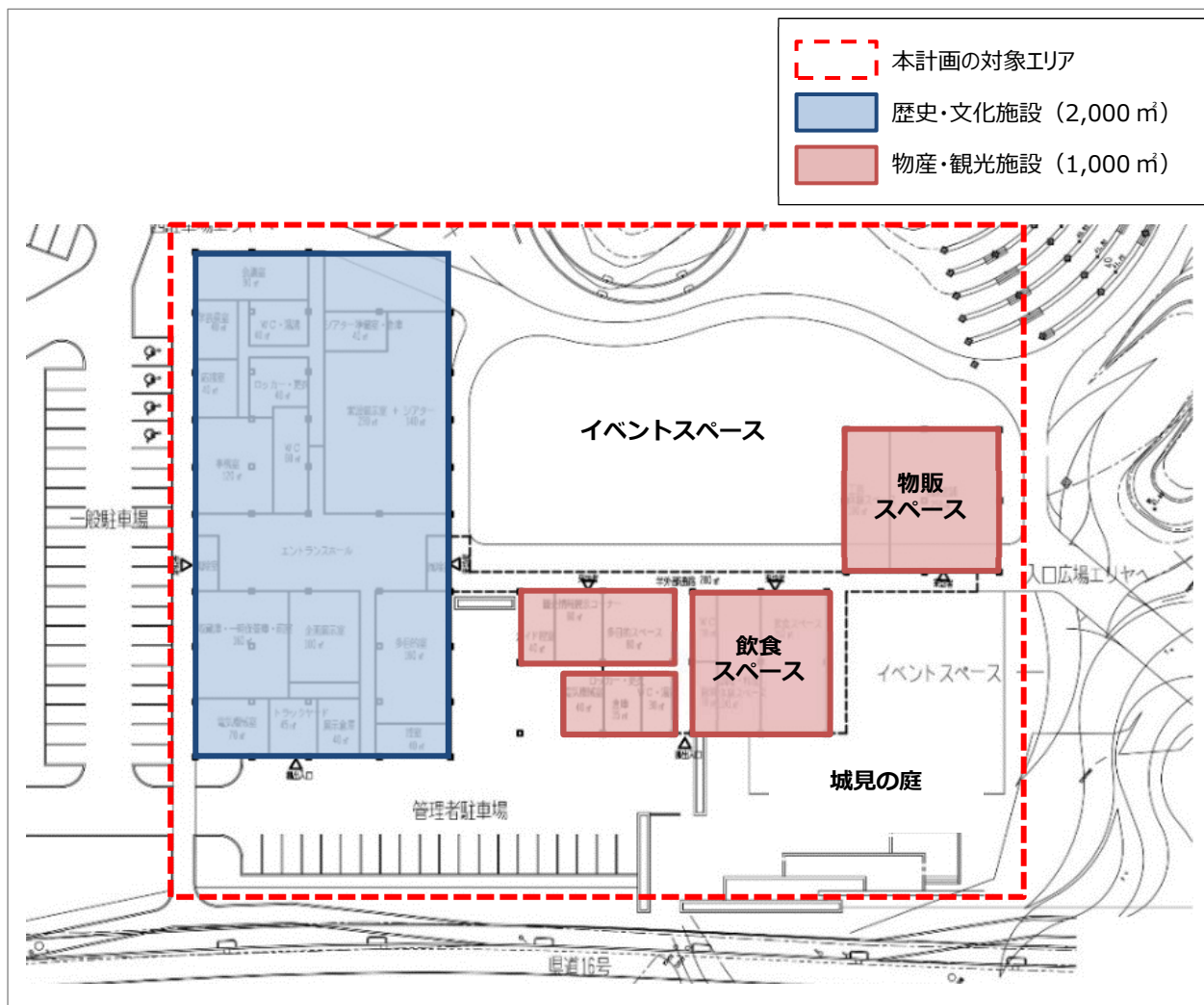
観光入れ込み数の増加のみならず、雇用や経済的効果の創出など、地域振興を視野に入れ、マーケティングやマネジメントなど経営的視点に立って事業展開を図る。自立的運営はもとより、高い成果を生み出そうとする取り組みである。

※DMO:DMO(Destination Management/Marketing Organization)とは、「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者の合意形成や、客観的データに基づく戦略策定、戦略の着実な実施に向けた調整機能を備えた法人のこと。

第3章 管理運営計画

1. 管理運営の対象エリア

第1章2.「勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画における基本方針」の(4)「本事業の対象施設及びエリア」で示した「拠点エリア」のうち、本計画の対象エリアは下図に示した文化観光エリア及び文化観光施設である。



2. 運営の基本方針

(1) 基本的な考え方

効果的・効率的な事業活動のための一体的な管理運営

- ・勝連城跡が内包する知的資源を活かし、魅力溢れる事業を展開するためには、歴史・文化施設と物産・観光施設とのあいだで密接な連携を図り、それぞれの事業計画を共有化することにより、効率的・効果的な施設の管理運営を行うものとする。

民間活力の導入による持続的・発展的な事業展開

- ・多岐にわたる事業活動を効果的に展開するために、民間事業者のノウハウを積極的に活用することとする。

拠点エリアとの柔軟な連携

- ・拠点エリア内でのイベントにあわせて開館時間の調整を図るなど、拠点エリアの管理運営者と連携を図り、エリア全体での誘客につながる事業活動を展開する。

市民の生きがい創出や次世代育成につながる市民との連携や協働

- ・当計画施設で展開するさまざまな事業活動において、子どもたちも含めた市民との連携や協働を図り、市民の生きがい創出や次世代育成に寄与する。

当市の産業振興に寄与する市内事業者との連携

- ・物販事業や飲食事業などにおいて、市内事業者との連携や育成支援を図り、独自性の高い商品や食の体験を提供する。

(2) 当計画施設の事業範囲

当計画施設における管理運営の事業範囲は、歴史・文化施設、物産・観光施設のほか、世界遺産・勝連城跡の入場料の徴収と想定する。なお、当計画施設が位置する拠点エリアについては、今後の事業の可能性をふまえながら当計画施設との一体的な管理運営のあり方についても検討する。

3. のぞましい運営体制のあり方

(1) 運営体制のあり方

当計画施設全体の運営体制ならびに、歴史・文化施設、物産・観光施設の運営体制は以下のとおりとする。

①施設全体の運営体制

- ・歴史・文化施設と物産・観光施設が効果的に誘客を図り、再訪につながる高い満足を提供するためには、各事業活動が密接な連携のもと一体的に管理運営されることが望ましい。そのため、当計画施設の人員配置は一つの組織として構成するものとする。

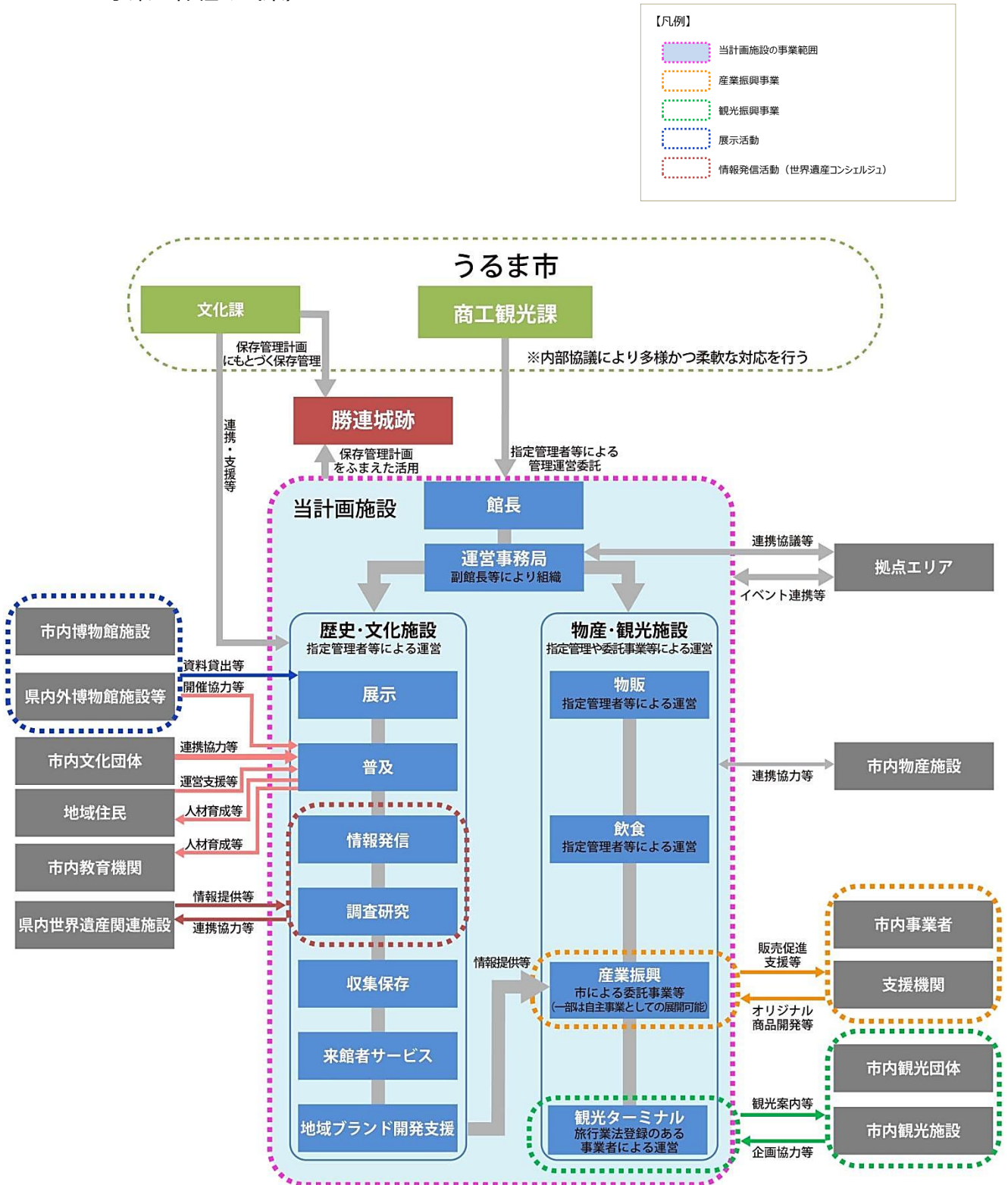
②歴史・文化施設の運営体制

- ・当市により現在も推進されている発掘調査や、これまで培われてきた調査研究の数々は、世界遺産・勝連城跡の歴史や文化を伝えるうえでなくてはならない知的資源である。当計画施設で勝連城跡の魅力を持続的・発展的に発信し続けていくためには、当市教育委員会などとの密接な連携を図り、発掘調査速報展などを開催するものとする。
- ・市民の積極的な参加が来訪や再訪の創出につながることから、市民ボランティアや市民団体などと円滑な連携・協働を図るための連絡担当者を設ける。

③物産・観光施設の運営体制

- ・産業振興機能や観光ターミナル機能など、当計画施設での事業活動の効果を島嶼部など、当市全体へと広げるためには、行政やさまざまな支援機関、関係機関との連携を重視し、専門の連絡担当者を設ける。

■事業の枠組み（案）



(2) 必要人員

歴史・文化施設及び物産・観光施設の事業活動に基づき検討すると下記のとおりとなる。なお、勝連城跡の入口ゲートや安全管理などに係る人員については別途検討し、城跡区域の管理者と密接な連携を図ることとする。

①歴史・文化施設の必要人員（案）

下記の事業を行うにあたり担当となる人員を設ける。また、イベントなどの開催にあたっては推進をサポートする支援スタッフも活用する。

■歴史・文化施設の職員

	職員	事業活動	主な役割	人数
	館長＊1		・当計画施設全ての活動に関する責任者	1人
歴史・文化施設	副館長(事務長)		・事業活動に関する統括責任者	1人
	学芸担当	展示活動	・常設展示の管理運営 ・企画展示の企画、管理運営	2人
		調査研究	・知的資源の情報アーカイブ管理 ・世界遺産コンシェルジュの展開に向けた情報収集 ・関連機関との連絡調整	
	普及担当	普及活動	・レクチャーや講演会の企画、管理運営 ・イベントの企画、管理運営 ・ガイド団体などとの連絡調整 ・学校団体、地域団体などとの連絡調整 ・支援スタッフの管理 ※学芸業務も担当できる人員を配置	1人
		地域ブランドの開発支援	・館の知的資源を活かした企画 ・物産観光施設や市内事業者などとの連携協力 ・事業活動の情報発信 ※調査研究も担当できる人員を配置	
	事業推進担当	情報発信	・世界遺産コンシェルジュ ・広報、情報発信活動の企画、推進管理 ・利用促進に向けたPR活動	1人
	事務担当	来館者サービス	・受付（インフォメーション）や発券業務 ・施設運営に係る諸管理業務 ※交代要員を含め通常2名を配置する	3人
	合計			9人

＊1 館長は歴史・文化施設と物産・観光施設の両方を兼ねる。

※施設清掃、機械管理などは外部委託を想定。

■支援スタッフ

歴史・文化施設	支援スタッフ	主な役割	人数
	展示解説ガイド	・展示室の資料解説	閑散期：2人 繁忙期：5人
	勝連城跡ガイド	・勝連城跡での解説 ※史跡ガイドの会など地域団体の活用も検討	閑散期：2人 繁忙期：5人
	運営サポーター	・館が行う諸活動の実施にあたっての支援協力	※要検討

②物産・観光施設の必要人員（案）

物産・観光施設の必要人員は下記のとおりである。なお、物産・観光施設の物販や飲食など収益事業と、産業振興や観光ターミナルなど公益性の高い事業を一体的に運営し相乗効果を図るとともに、繁閑差に関係なく一定水準のサービスを提供するため、すべてのスタッフが担当事業に所属しながらも、すべての事業を行うことのできる「多能工」として勤務することとする。

■物販事業などの職員

	事業担当	主な役割	人数
物販事業など	物販担当	・商品の仕入れ ・商品の在庫管理 ・商品説明及び販売	3人
	産業振興担当	・生産者や事業者連携連絡 ・チャレンジショップの企画、管理 ・産業振興イベントの企画、実施、管理 ※飲食事業における産業振興も兼ねる	1人
	観光ターミナル担当	・観光事業者との連携 ・着地型観光商品の販売 ・着地型観光商品の企画 ・観光事業者間の連携支援	1人
	合計		5人

※施設清掃、機械管理などは外部委託を想定。

■飲食事業などの職員

	事業担当	主な役割	人数
飲食事業	飲食担当	・メニュー開発 ・調理、配膳、清掃、衛生管理など	4人
	テイクアウト担当		2人
	産業振興担当	・生産者や事業者連携連絡 ・チャレンジショップの企画、管理 ・産業振興イベントの企画、実施、管理 ※物販事業における産業振興も兼ねる	1人
	合計		7人

※施設清掃、機械管理などは外部委託を想定。

4. 開館形態

(1) 開館時間

当計画施設の開館形態は以下のとおりとする。なお、今後の検討により見直す可能性がある。

開館時間	9:00～17:00(入館は 16:30 まで) 観光シーズン(7～9 月)は 19:00 まで開館 ※イベントなどにより開館延長あり。
休館日	年中無休 ※メンテナンスなどによる休館日あり。

※勝連城跡休憩所の開館形態をもとに想定。

(2) 料金

a. 基本的な考え方

- ・勝連城跡の継続的かつ効果的な保存管理に資するため、勝連城跡及び当計画施設では入館及び入場にあたり料金の徴収を図る。
- ・勝連城跡及び歴史・文化施設はそれぞれに料金を設定し、物産・観光施設は収益性を考慮して入館を無料とする。
- ・勝連城跡と歴史・文化施設の共通券を設け、双方の利用促進を図る。

b. 料金（案）

参考事例などをふまえて、料金（案）は下記のとおりとする。なお、今後の検討により見直す可能性がある。

区分	勝連城跡	当計画施設
個人	大人(高校生以上) 300 円 中学生以下 200 円	大人(高校生以上) 300 円 中学生以下 200 円
団体 (※20 名以上)	大人(高校生以上) 250 円 中学生以下 150 円	大人(高校生以上) 250 円 中学生以下 150 円
共通券	大人(高校生以上)500 円 中学生以下 300 円	

5. 管理運営手法

(1) 管理運営手法にもとづいた整備方針、整備手法

これまでの調査や検討結果から、以下の考え方に基づき当計画施設の管理運営手法は指定管理者制度によるものとする。

<整備方針・整備手法検討のための与件>

- ・当計画施設は世界遺産・勝連城跡のガイダンスセンターであることから、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」関連施設との連携が重要である。
- ・歴史・文化施設と物産・観光施設の一体的な運用により公益事業と収益事業の相乗効果が期待できることから、双方の管理運営能力を有していることが望ましい。
- ・当計画施設の立地は南部と北部とをつなぐ経路ともいえ、相乗効果の実現に向けた県内観光施設との連携も重要となる。
- ・当市さらには中部東海岸地域の観光振興に寄与するため、集客に結び付く多様な事業を効率的・効果的に行うことのできる運営ノウハウを有していることがのぞましい。
- ・当計画施設は 3,000 m²程度と施設規模が小さいことなどから、P F I 方式による整備には適さない。
- ・歴史・文化施設の公益性と、物産・観光施設の収益性を効率的・効果的に推進していくことがのぞましい。



<のぞましい管理運営手法>

- ・指定管理者方式により、指定管理者が一体的に運用を行う。
- ・歴史・文化施設、物産・観光施設の双方の管理運営実績がある。
- ・効果的な誘客を図るため、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」関連施設のほか、集客力の高い県内観光施設とのネットワークを有している組織、もしくはこの組織を含む共同事業体とによる管理運営。
- ・集客や収益事業開発が指定管理者のインセンティブにつながるようしくみとしながらも公共性を確保するため、委託料及び利用料金併用制を検討する。
- ・指定管理者選定の際は、施設の一体的な運営と広域ネットワーク力を重視する。

(2) 課題と与条件及び運営への要求事項の整理

当計画施設を管理運営する上で、責任やリスクなど課題となる事項についての負担区分は以下のとおりである。

■市と運営者の負担区分（案）

責任・リスク	負担者		解 説
	自治体	指定管理者	
施設の設置・目的	○	—	施設の位置や目的を定めるのは自治体の責任である。
事業計画・内容	○	○	自治体、指定管理者のそれぞれがリスクを負う。
施設の維持管理	△	○	基本は指定管理者がリスクを負う。ただし、一定金額以上のものは自治体が負担すべきである。
大規模修繕など	○	△	新規施設を除いては、自治体が責任を負う。
利用者需要・収入	○	○	利用料金施設では基本的に指定管理者に責任があり、非利用料金施設では基本的に自治体の責任となる。
事 故	△	○	帰責者が誰かによるが、基本的には指定管理者が事故に関するリスクを負担すべきである。
燃 料 費 変 動	○	○	一定範囲内の変動については指定管理者が、一定範囲以上の変動については自治体が負担するのが妥当である。精算制を導入している自治体もある。
法令・政策変更	○	○	基本的に指定管理者が負担するが、指定管理者が対応不能な部分は自治体が負担する。
不 可 抗 力	○	○	一定範囲内のリスクについては指定管理者が、一定範囲以上のリスクについては自治体が負担するのが妥当である。

※○は主分担を、△は従分担を示す。

(3) 指定管理者制度の検討に関する基本的な考え方

当計画施設の管理運営において、指定管理者制度の導入を検討する際の基本的な考え方は以下のとおりとする。

なお、今後の詳細調査や具体的な検討により、見直す可能性がある。

■ 検討に向けた仕様の考え方

- ・本基本計画に記載される事業について、一体的に管理運営を行うことのできる事業者とする。
- ・世界遺産・勝連城跡のガイダンスセンター及び当市のガイダンスセンターとしての位置づけを十分に理解し、来場者数の確保及び当市内への回遊性の向上について、民間事業者としてのノウハウを活かして効果的な事業の展開を行う。
- ・指定管理業務の対象となる区域は、当計画施設の事業に直接的に関わる部分とする。具体的には、当計画施設を構成する歴史・文化施設、物産・観光施設の管理運営、管理者用駐車場、当計画施設で企画する活動を実施するスペースである城見の庭やイベント広場とする。
- ・勝連城跡に関しては、当市が別途定める保存活用計画に基づいて管理を行うものとし、指定管理業務の対象には含まない。
- ・歴史・文化施設における展示活動については、当市教育委員会と密接な連携を図りながら、効果的な事業活動を行う。
- ・産業振興機能や観光ターミナル機能など、公益性の高い一部の事業については、当市における関連事業との連携・調整などをふまえ、柔軟なあり方を検討する。
- ・指定管理者の裁量を活かし、効果的・効率的な管理運営を可能とするため、委託料と利用料金の併用制とする。
- ・利用料金は勝連城跡と歴史・文化施設のそれぞれに設定し、割引となるセット料金を設定する。
- ・特別な目的をもって実施される大規模なプロモーションやイベントなどは、事前の事業活動計画に基づいて検討を行い、当市と適宜協議のうえ別途行うものとする。
- ・利用料金収入が管理費などの指定管理料を上回った場合、その収益が指定管理者のインセンティブとなるよう検討する。

6. 運営費に関する概算試算

(1) 収支の構成と考え方

当計画施設の収支の構成と考え方は、次のとおりとする。

①収入予測

項目	内容	想定額
入場料 (勝連城跡もしくは 歴史・文化施設のみ)	料金(案)：一般(大人) 300円、(子ども) 200円 団体(大人) 250円、(子ども) 150円 セット券(大人) 500円、(子ども) 300円	¥89,850,000
活動収入	企画展やイベントの開催などを、事業者のインセンティブとする	—
	合計	¥89,850,000

※入場料収入が管理費などの支出を上回った場合、その収益が管理運営者のインセンティブとなるよう検討する。

②支出予測

a.管理費

■歴史・文化施設

項目	内容	想定額
人件費	※物産・観光施設の単価に準じる。 館長：5,000千円×1人 副館長：3,000千円×1人 職員A：2,500千円×5人 職員B：2,000千円×2人(パートタイマー)	¥24,500,000
管理費	※設計により変動する。 ※県内博物館施設を参考とする。 ※損害保険料等は除く。 事務費：4,500千円 諸経費：3,500千円 水光熱費：7,000千円 その他：6,000千円(設備保守点検費等)	¥21,000,000
	合計	¥45,500,000

■物産・観光施設（産業振興事業と観光ターミナル事業に係る管理費）

項目	内容	想定額
人件費	職員B：2,000千円×4人(パートタイマー)	¥8,000,000
管理費	※設計により変動する。 ※損害保険料等は除く。 事務費：300千円 諸経費：400千円 水光熱費：600千円 その他：700千円(設備保守点検費等)	¥2,000,000
	合計	¥10,000,000

※物販、飲食事業に係る管理費は除く。

b.事業費

■歴史・文化施設

項目	内容	想定額
事業費	※県内博物館施設を参考とする。 企画展示費：5,500千円 普及事業費：6,000千円 集客費：12,000千円	¥23,500,000
	合計	¥23,500,000

※物産・観光施設の事業費は除く。

(2) 収支想定

当計画施設の収支について、次のとおり想定する。

■収支予測

収入の合計：8,985 万円			
入場料収入：8,985 万円			
↓			
支出の合計：8,946 万円			
文化観光施設に係る管理費の合計：5,727 万円			その他周辺エリアの 管理費※2
歴史・文化施設	物産・観光施設	文化観光施設の外構等 に係る管理費※1	
4,550 万円	1,000 万円	177 万円	3,219 万円

上記の収支想定は、当計画施設及び拠点エリアの施設維持管理の観点から試算を行ったものである。そのため、歴史・文化施設に係る事業費および大規模プロモーションなどの費用は、当市の方針や関連施策などをふまえ別途確保し、推進するものとする。

- ※1 当計画施設の管理運営対象エリア（管理者用駐車場とイベントスペースなどの外構部分）の約 4,500 m²とする。
- ※2 当計画施設面積及び管理運営対象エリアを除く、その他周辺エリア約 78,200 m²とする。また、勝連城跡の草刈及び石積の除草などを含む。

なお、予定管理区域（拠点エリア）の管理費については下記の考え方に基づき試算した。

- ・規模が類似する喜屋武マープ公園 6.4ha の管理費約 8,370,000 円を基準とする。
- ・1 m²あたりの管理費 約 8,370,000 円 ÷ 64,000 m² = 約 130.8 円 / m²
- ・通常の都市公園である喜屋武マープ公園と比較し、拠点エリアの管理頻度は 3 倍とする。
- ・拠点エリアの 1 m²あたりの管理費 約 130.8 円 / m² × 3 = 約 392.4 円 / m²
- ・当計画施設の管理対象エリアは管理者駐車場とイベント広場等の外構部分とする。
- ・管理対象エリアの管理費 2,500 m²（管理者駐車場） + 2,000 m²（外構部分）
× 392.4 円 / m²（拠点エリアの管理費）
= 1,765,800 円
- ・その他周辺エリアは、拠点全体 80,000 m²（当計画施設を含まない）から当計画施設の管理対象エリアを除き、入口ゲート 2,700 m²を加えた 78,200 m²とする。
- ・その他周辺エリアの管理費に、勝連城跡における草刈費なども含むものとする。
- ・その他周辺エリアの管理費 80,000 m²（拠点全体） - 2,500 m²（管理者駐車場）
- 2,000 m²（外構部分） + 2,700 m²（入口ゲート）
= 78,200 m²
78,200 m² × 392.4 円 / m²（拠点エリアの管理費）
= 30,685,680 円
30,685,680 円 + 1,500,000 円（勝連城跡の草刈や除草費）
= 32,185,680 円

第4章 施設整備計画

1. 整備コンセプト

(1) 勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本設計における基本方針

「勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本設計」（平成27年3月）における基本方針は以下のとおりである。

勝連城跡への眺望や、勝連城跡からの景観に配慮した施設

- ・勝連城跡のもつ歴史的文化的価値を損なうことがないよう本施設の建築物は、周辺から勝連城跡を望む眺望の妨げとならず人工物が主張しないよう十分配慮する。また、勝連城跡から眼下を見下ろした際の景観にも最大限配慮したものとする。
- ・施設は人工物が極力視野・視界に入らない配置・高さを設定し、建築物のボリュームを感じさせないよう工夫する。屋上緑化を行い周辺環境と調和した修景を行うことや、建築物を分棟型として大きな人工物となることを避ける手法が考えられる。
- ・現状敷地の地形を活かして景観に馴染む施設計画とするとともに、造成による盛土切土を少なくすることで土地造成のコスト抑制も検討する。
- ・施設の屋根や外装材は、地域特性を活かし琉球瓦や花ブロックを使用するなど周辺の景観と調和する意匠やデザインを施す。

多様な利用者の利便性に配慮したユニバーサルデザイン

- ・車椅子利用の方、障がいのある方、高齢の方など、誰もが利用しやすい施設となるようユニバーサルデザインの考え方を取り入れた施設整備を行う。段差のない移動経路、多目的トイレの設置、見やすいサイン表示など、多様な利用者の視点に立ち、使いやすい施設となるよう工夫する。
- ・乳幼児や小さな子どもを連れた利用者も想定し、授乳室やおむつ替えコーナーなどを設け利便性を高める。また、外国人利用者にも配慮しサインは多言語で表示を行うなど配慮する。
- ・個人利用のほか、団体観光客や修学旅行団体の利用も想定されることから、施設は団体利用に十分対応できるゆとりのある広さを確保する。

段階的整備に配慮した施設配置

- ・敷地の用地取得が段階的に行われることから工事を2段階で実施し、運用に支障がないよう計画する。
- ・利用者へ勝連城跡のガイダンスを行う歴史・文化施設を1期工事とし、

物産品販売や市域の観光ステーションの機能を有する物産・観光施設は用地取得後の2期工事として計画する。

- ・両施設は一体的な運用が行えるよう、管理機能は1期工事部分に集約して設ける。管理機能を一元化することで両施設の機能重複を避け、整備コストの効率化を図る。

(2) 勝連城跡周辺文化観光施設における整備コンセプト

①歴史・文化施設（1期工事）

a. 基本的な考え方

勝連城跡を訪れる人々のガイダンス施設としての役割を重視

- ・本施設は利用者駐車場から勝連城跡へ至る動線の導入部分に配置することで、勝連城跡を訪れた人々が必ず立ち寄ることができる環境を整備する。
- ・利用者に勝連城跡に関する予備知識を提供することに加えて、歴史文化遺産の見学に際するマナーを啓発するなどのガイダンスが効果的に実施できるようにする。
- ・展示活動部門は勝連城跡のガイダンス施設として重要な役割を担うことから重点的な整備を行う。また、訪問者が楽しめるイベントや体験活動が実施できる機能整備を行う。
- ・事業活動は市民との協働で行うことを想定し、市民グループや市民ボランティアの控室や活動スペースも併せて整備することを検討する。

文化財資料の展示公開に適した施設計画

- ・本施設は勝連城跡のガイダンス施設としての役割を重視し、展示活用する文化財資料に限り、これを適切に保管できる収蔵機能を整備する。勝連城跡の発掘調査が今後進むことにより、多くの出土資料が産出すると考えられるが、これらを整理保管し収蔵する施設は別途検討を行うものとする。
- ・他館から文化財資料を借用した企画展示が開催できるよう、借用資料に破損や盗難が生じないように安全性に配慮し、保存環境が整備された一時保管庫を設ける。また、文化財資料の搬出入動線は利用者動線と管理動線と重複しないよう、トラックヤード・荷解き・収蔵庫・企画展示室は適切な配置とし短動線でつながるよう計画する。

b. 整備する部門・諸室

ア. 展示活動部門

展示活動部門には以下の諸室機能を設ける。

ア－１．常設展示室

- ・勝連城跡について基本的な情報をわかりやすく紹介するとともに、史実性や学術性を重視しながらも、阿麻和利の物語を活用したエンターテインメント性の高い展示とする。
- ・展示ストーリーや演出効果を高めるために、展示計画の内容が十分に反映できるよう整備する。スケールの大きな展示演出が行えるよう天井高を3.5m～4.0m程度確保する。
- 基本内装：床/タイルカーペット、壁/石膏ボード塗装仕上げ、天井/メッシュ天井など
- 必要設備：一般照明設備、展示用照明設備（配線ダクトなど）、展示機器用電源設備、無線LANなど

ア－２．企画展示室

- ・期間を限定した企画展示、他館からの借用資料を活用した企画展示などを開催する。文化財資料を安全かつ適切な保存環境で展示公開できる展示ケースなどを整備する。
- 基本内装：床/タイルカーペット、壁/石膏ボード塗装仕上げ、天井/メッシュ天井など
- 必要設備：一般照明設備、展示用照明設備（配線ダクトなど）、展示機器用電源設備、無線LANなど
- ※隣接して企画展示の開催に必要なケースや展示什器、展示パネルなどを収納する展示倉庫を設ける。

ア－３．ミニ・シアター（映像シアター兼小劇場）

- ・展示と連携して勝連城跡のガイダンスを行う映像を上映するミニ・シアターを設ける。また、阿麻和利と百度踏揚の物語を題材としたミニ演劇、エイサーや獅子舞など地域の祭りや伝統芸能を活かしたイベントも開催可能なスペースとして小舞台も整備し、多目的活用が図れるよう整備する。
- ・観覧者の視認性に配慮して客席部分はスキップフロア[※]などの採用も検討する。
- 基本内装：床/タイルカーペット、壁/吸音パネル（有孔ボード＋グラスウールなど）、天井/岩綿吸音板など
- 必要設備：映像音響設備、一般照明設備、舞台用照明設備など
- ※隣接して舞台用の大道具や小道具を収納する倉庫や演者の控室などを設ける。

※スキップフロア：床面の一部の高さに変化を持たせた構成のこと。

イ. 普及活動部門

普及活動部門には以下の諸室機能を設ける。

イー 1. 多目的室

- ・修学旅行などの団体誘客につながる教育プログラムや観光体験プログラムを実施する。利用者数に応じて可動間仕切りで2室に分割して使うことができる設備を設ける。また、プログラムによっては水を用いることが想定されるため流しなどを備える。

- 基本内装：床/ビニルタイル、壁/石膏ボード塗装仕上げ、天井/岩綿吸音板など
- 必要設備：一般照明設備、映像上映機器、可動間仕切り、流しなど

イー 2. 控室・ボランティア室

- ・普及活動を市民協働で行うための講師やボランティアの控室スペースを設ける。支援スタッフは4～10名程度を想定する。

- 基本内装：床/ビニルタイル、壁/石膏ボード塗装仕上げ、天井/岩綿吸音板など
- 必要設備：一般照明設備、ロッカーなど

ウ. 収蔵部門

収蔵部門には以下の諸室機能を設ける。

ウー 1. 収蔵庫・一時保管庫・前室

- ・展示活動に必要な資料を適切に保管できる収蔵庫を整備する。また、他館からの借用資料を保管する一時保管庫を別に設け、借用資料の材質や特性にあわせて保管できるよう整備する。各収蔵庫には前室を設ける。
- ・収蔵庫は耐火構造とし、外部からの日射や温湿度変化が収蔵庫内部に生じないように断熱性・防湿性に十分配慮した構造とする。

- 基本内装：床/木製フローリング、壁/調湿ボード塗装、天井/岩綿吸音板など
- 必要設備：温湿度が維持できる空調設備、収蔵什器、集密ラックなど

ウー 2. トラックヤード・荷解室

- ・借用資料を安全に搬出入できるトラックヤードと必要な荷解き場スペースを設ける。収蔵庫に近い配置とする。

エ. 管理部門

2期工事となる物産・観光施設との一括管理を想定して諸室機能の整備を行う。

エー 1. 事務室

- ・歴史・文化施設、物産・観光施設を一体的に管理する事務室を置く。館長室、職員事務室、学芸員など、施設管理や運用に携わるスタッフを集約した執務スペースを整備する。
- ・職員数は館長1名、歴史・文化施設職員8名（学芸員含む）、物産・観光施設職員4～8名を想定する。
- 基本内装：床/OAフロア+タイルカーペット、壁/石膏ボードクロス貼り、天井/岩綿吸音板など

エー 2. 応接室 会議室

- ・来客用の応接室、職員がミーティングを行う小会議室と大会議室を置く。
- 基本内装：床/OAフロア+タイルカーペット、壁/石膏ボードクロス貼り、天井/岩綿吸音板など

エー 3. 学芸員室・書庫

- ・学芸員が調査研究を行う独立した執務スペースを設ける。調査資料や書籍を収納する書庫を隣接して設置する。
- 基本内装：床/OAフロア+タイルカーペット、壁/石膏ボードクロス貼り、天井/岩綿吸音板など
- 必要設備：集密書架など

エー 4. ロッカー・更衣室・職員用 WC・給湯室

- ・職員用のロッカー、更衣室を男性職員、女性職員用に個別に設ける。職員用のトイレや給湯スペースは一般来館者の出入りのない場所に適切に配置する。

エー 5. 休憩室

- ・職員の休憩のほか、バスなどの車両運転手の休憩スペースとしても使用する。畳敷きなどの和室とする。

オ. 共有部

共有部は以下の諸室機能を設ける。

オー 1. エントランスホール・風除室・受付

- ・エントランスは勝連城跡の歴史文化を扱う施設としての風格のある意匠とするとともに、団体利用の待合などにも使用できる十分な広さを確保する。天井高を3.5m～4.0m程度確保し開放感のある空間として計画する。
- ・利用者への施設案内やチケット販売を行う受付機能を置く。
- 基本内装：床/磁器タイル貼、壁/時期タイル貼、天井/岩綿吸音板など
- ※隣接して休憩コーナーや自販機コーナーなどを併設する。

②物産・観光施設（2期工事）

a. 基本的な考え方

分棟型の配置による利用者が立ち寄りやすい開放的な施設

- ・勝連城跡の見学前後に気軽に立ち寄ることができるオープンな環境となるよう施設は分棟型とし開放廊下でつなぐ計画とする。地域の気候風土に合わせた計画とするとともに、屋外、半屋外のスペースが有効に活用できるようにする。
- ・物産施設、飲食施設、観光ターミナルを分棟形式とすることで機能ごとに開館時間を変えるなど柔軟な運用ができるよう配慮する。
- ・また、分棟型とすることで人工物のボリューム感を低減することが可能となり、周辺環境との調和を図る効果が期待できる。

多彩な物産品の販売、利用者層に柔軟に対応できる施設

- ・物販スペースは販売する物産品の種別や店舗の変更にも柔軟に対応できるよう配慮し、運用に応じて店舗のコマ割りやショーケースやレジスペースが自由にレイアウトできるよう計画する。
- ・イベントスペースや城見の庭とも一体的な活用を図れる配置とすることで、物産品のイベント活用や、M I C E など団体利用時の飲食スペースの拡張が柔軟に行えるよう計画する。

観光ターミナル機能の充実を図り、市域への回遊性を高める

- ・市域全体への観光案内を行い、観光チケットの販売や宿泊施設の手配などを行う観光ターミナル機能を重点的に整備する。
- ・勝連城跡のガイドツアーや市内周遊観光の展開に向け、市民ガイドなどの利用を想定した諸室機能も整備する。

b. 整備する部門・諸室

ア. 物販部門

物販部門には以下の諸室機能を設ける。

アー 1. 物販店舗スペース

- ・勝連城跡や当市の魅力を共有できる商品の提供、観光客をメインターゲットとした土産用の箱物菓子や、勝連城跡や当市、沖縄県の文化を感じさせる工芸品を中心としたオリジナル商品を提供する。
- ・各店舗のコマ割りを柔軟に行うことができ、ショーケースやレジカウンターなどの什器を適切に配置できるようにする。
- 基本内装：床/ビニルタイル、壁/石膏ボードクロス貼り、天井/岩綿吸音板、など
- 必要設備：一般照明、店舗用照明、電源設備、LAN 設備など

イ. 飲食部門

飲食部門には以下の諸室機能を設ける。

イー 1. 飲食スペース（ホール）

- ・来訪者がもつ「訪れた土地ならではの食への期待」に対応した食の体験、勝連城跡やその歴史的背景を想起させる施設全体での満足度につながる食の体験を提供する。
- ・80 席程度の座席数を備える。さらに、屋外の城見の庭やイー 3. 体験スペースと一体的に運用できる配置とし、大人数の団体利用もできるよう工夫する。
- 基本内装：床/フローリング、壁/石膏ボードクロス貼り、天井/岩綿吸音板など

イー 2. 厨房

- ・運用やメンテナンスコストにも配慮して適正規模の厨房を設ける。ドリンクやデザート単品によるフードメニュー、テイクアウトメニューなどを主体として提供メニューを絞って展開する。

※団体利用時は別途ケータリングサービスによる提供を検討。

イー 3. 体験スペース

- ・調理や料理体験を行うオープンキッチンと試食スペースを備える。使用していないときは飲食施設のホールとしても開放し、団体客の受け入れを行う。
 - 基本内装：床/フローリング、壁/石膏ボードクロス貼り、天井/岩綿吸音板など
 - 必要設備：一般照明、電源設備、ミニキッチン（給排水・電磁調理器）など
- ※隣接して倉庫を設ける。

ウ. 産業振興部門

産業振興部門には以下の諸室機能を設ける。

ウー 1. 工芸体験スペース

- ・市内の事業者や工芸従事者と連携し、開発した商品の展示や来訪者が工芸体験を行うことができるスペースとする。
- 基本内装：床/ビニルタイル、壁/石膏ボードクロス貼り、天井/岩綿吸音板など
- 必要設備：一般照明、電源設備、流しなど
- ※隣接して倉庫を設ける。

エ. 観光ターミナル部門

観光ターミナル部門は以下の諸室機能を設ける。

エー 1. 観光情報展示コーナー

- ・市内の観光地や観光プログラムの紹介、観光地や観光プログラムの送迎車への乗り換えなどの機能を展開する。
- ・観光案内を行う係員のカウンター、観光情報を提供するキオスク端末などを設置する。市内の見どころを紹介する展示コーナーを設置する。
- 基本内装：床/フローリング、壁/石膏ボードクロス貼り、天井/岩綿吸音板、など
- 必要設備：一般照明、店舗用照明、電源設備、LAN 設備など

エー 2. 多目的スペース

- ・市内で展開される着地型観光商品の販売、観光プログラムなどのオリエンテーション、イベントなどを開催する多目的スペースとする。
- 基本内装：床/フローリング、壁/石膏ボードクロス貼り、天井/岩綿吸音板など
- 必要設備：一般照明、店舗用照明、電源設備、LAN 設備など

エー 3. ガイド控室

- ・ガイド用の控室、ロッカースペースを備える。支援スタッフは4～10名を想定する。
- 基本内装：床/ビニルタイル、壁/石膏ボード塗装仕上げ、天井/岩綿吸音板など
- 必要設備：一般照明設備、ロッカーなど

2. 設計、デザイン方針

(1) 物販部門の想定面積

当計画施設の物販部門の想定面積は以下のとおりとなる。

①算定与件

以下の考え方にに基づき年間坪効率を設定する。

○算定与件

- ・物販事業の買上率を 15%、利用単価を 2,200 円とする。
- ・300,000 人（年間来訪者数）×15%（買上率）×2,200 円（利用単価）
=99,000,000 円（年間売上目標）

○国内郊外立地スーパーの傾向

- ・大手流通企業グループの、郊外立地スーパーにおける年間坪効率は約 80 万円である。
- ・国内のチェーンストアが加盟する団体の統計では、加盟企業が展開するスーパーのうち郊外立地店舗における年間坪効率は約 100 万円である。

○参考情報：

「上場流通企業最新の業種・フォーマット別・企業別経営効率集（2016 年度版）」
株式会社日本リテイリングセンター

- ・食品と非食品を扱う日本型スーパーストアの年間坪効率は約 140 万円である。

※日本型スーパーストア：GMS（ゼネラルマーチャンダイズストア）と呼ばれ、食品と非食品を併売する小売業のこと。売上高のうち食品は 50%程度であるほか、顧客が自由に商品を選ぶことのできるセルフセレクト方式を採用する業態のこと。



当計画施設の立地や、工芸品などを含む販売品目をふまえ、
年間坪効率を 130 万円とする。

②必要面積

上記の設定をもとに物販部門の必要面積は以下のように仮定する。

$$99,000,000 \text{ 円（年間売上目標）} = 1,300,000 \text{ 円（年間坪効率）} \times \boxed{\text{（必要面積）}}$$



当計画施設の物販部門は約 76 坪（約 250 m²）とする。

(2) 飲食部門の想定面積

当計画施設の飲食部門の想定面積は以下のとおりとなる。

①算定与件

以下の考え方にに基づき客席数を設定する。

○算定与件

- ・飲食事業の利用率を 20%、利用単価を 860 円とする。
- ・300,000 人（年間来訪者数）×20%（買上率）×860 円（利用単価）
＝51,600,000 円（年間売上目標）
- ・メンテナンスによる休館日などを勘案し、年間開店日数を 300 日と仮定する。

○カフェの客席面積と席数の傾向

- ・利用者がゆったりとくつろげる席数は 1 坪あたり 1.5 席から 1.8 席程度である。
- ・当計画施設では来訪者にくつろぎの時間を提供するため、1 坪あたりの客席数を約 1.7 席と仮定する。

○客席回転数の想定

- ・当計画施設の飲食事業は昼食や喫茶を中心とした展開を想定している。
- ・昼食時間帯を 11 時 30 分から 13 時 30 分の 2 時間と仮定し、そのほか喫茶での利用もふまえると、客席の回転数は 2.5 回転程度と想定される。

○客席数

- ・上記の算定与件をふまえると、必要客席数は下記のとおりとなる。
- ・51,600,000 円（年間売上目標）＝

$$\boxed{\text{客席数}} \times 2.5 \text{ 回転 (客席回転数)} \times 860 \text{ 円 (客単価)} \times 300 \text{ 日 (年間開店日数)}。$$



当計画施設の飲食部門の客席数は 80 席とする。

②必要面積

上記の設定をもとに飲食部門の必要面積は以下のように仮定する。

- ・80 席（客席数）÷1.7 席（1 坪あたりの客席数）＝ $\boxed{\text{必要面積}}$



当計画施設の飲食部門は約 47 坪（約 150 m²）とする。

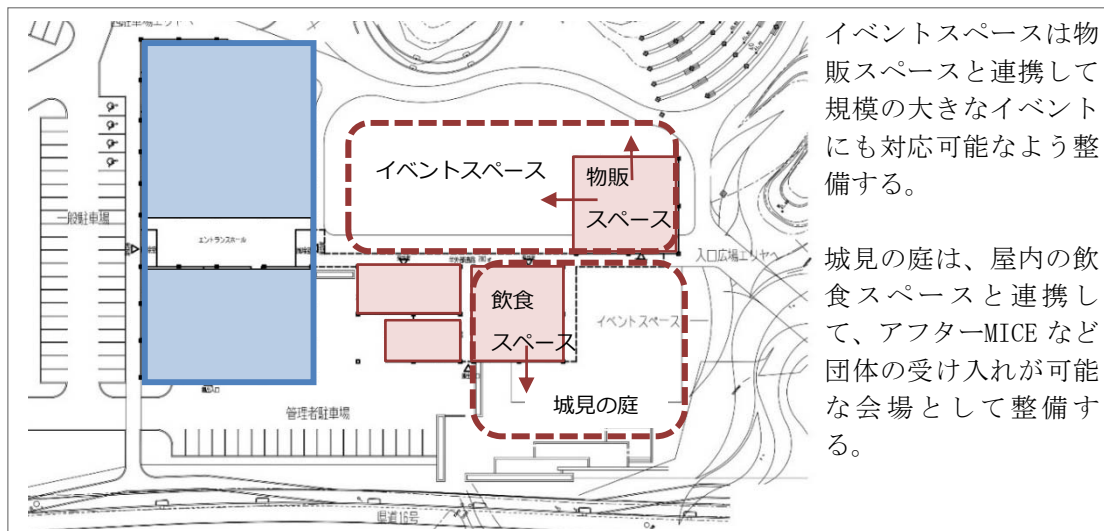
(3) 屋外施設の考え方

多彩なイベントの開催と利用者の憩いの場となる屋外スペース

- ・阿麻和利を題材とした寸劇や、エイサーなどの地域の祭りをテーマとしたイベント、市内物産品や工芸品のPRイベントなどが開催できるスペースを屋外に整備する。普段は利用者が休憩できる場として機能するように、四阿などを整備する。なお、音響や照明などイベントの開催内容に合わせた機材の利用を可能にするため、屋外分電盤を設置する。

アフターMICEなどの団体利用にも活用可能な屋外スペース

- ・勝連城跡への眺望が期待できる城見の庭は屋内の飲食スペースとの一体的に利用できる計画とし、勝連城跡の眺望を活かしたアフターMICEの利用なども視野に検討を行う。



団体や多様な利用者層を想定した駐車場整備

- ・一般車両のほか、団体利用の大型バスの駐車スペースを適切に設ける。
- ・身障者用の駐車スペースも適切に設ける。VIP用の車寄せは雨掛りとならないよう配置する。
- ・団体観光客の集中利用に対応できるよう、外部からも利用可能なトイレの設置を検討する。

3. 計画地・計画施設概要

計画地概要及び当計画施設の計画概要は次のとおりとなる。

1. 計画地概要		
計画地所在地		沖縄県うるま市勝連南風原地内
敷地面積		98,700 m ²
用途地域		用途地域の指定のない区域（特殊基準）
建蔽率・容積率		建蔽率 60% 容積率 100%
特定用途制限地域		勝連城跡周辺保全地区
景観地区		勝連城跡環境保全ゾーン
	規制・制限等	「うるま市勝連南風原景観地区まちづくり計画における建築物の基準」による
	高さ	9m以下

2. 建築物概要（想定）	
2-1：歴史・文化施設（1期工事）	
構造	R C 造 地上1階 耐火建築物
延床面積	2,000 m ²
建物用途	博物館等
消防法防火対象物	8項 図書館・博物館・美術館の類
2-2：物産・観光施設（2期工事）	
構造	R C 造・S 造 地上1階
延床面積	1,000 m ²
建物用途	店舗・事務所
消防法防火対象物	16項（イ）複合用途防火対象物（飲食・物販・展示）

4. 施設構成及び諸室空間

(1) 施設諸室面積表

勝連城跡周辺文化観光施設計画 諸室面積表（案）

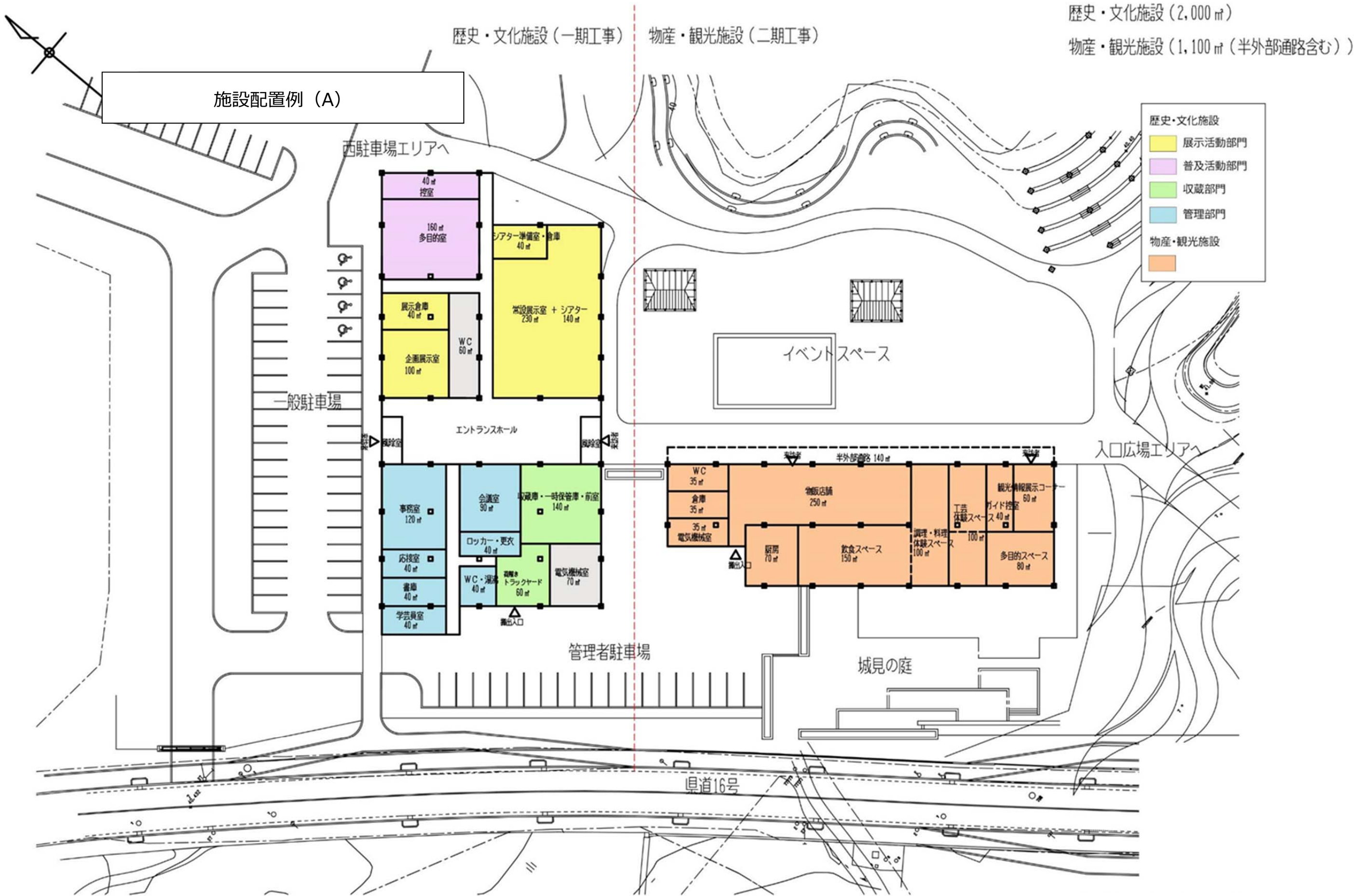
(面積は仮設定)									
工期区分	施設	部門	諸室等名称	面積 (㎡)	面積比率	整備内容	必要機能・設備等	備考	
1期工事	歴史・文化施設	①展示活動部門		(550 ㎡)	27.5%			類似施設（2000㎡以下の博物館）の展示部門面積比率は延べ面積の32%程度	
			常設展示室	230 ㎡		勝連城跡について基本的な情報をわかりやすく紹介するとともに、史実性や学術性を重視しながらも、阿麻和利の物語を活用したエンターテイメント性の高い展示を行う。	多くの来訪者を受け入れ、さまざまな展示演出が行える十分な面積と天井高さを確保する。窓のないスペースとし、展示品の保全についても配慮した設備とする。		
			企画展示室	100 ㎡		幅広いテーマで来館促進につながる企画展示や、勝連城跡発掘調査の結果公開などを行う。	窓のないスペースとし、展示品の保全についても配慮した設備とする。展示替えに適したケースや展示備品を整備する。借用資料等の搬出入のため、収蔵庫・一時保管庫に近い位置に配置する。		
			展示倉庫	40 ㎡		企画展示等の備品を収納するスペース。			
			ミニ・シアター (映像シアター兼小劇場)	140 ㎡		阿麻和利と百度踏揚の物語を描く映像の上映や、勝連城跡をテーマとする演劇プログラムや、エイサーや獅子舞など地域の祭りや伝統行事を活かしたイベントの開催も可能なスペースとして整備する。	大型スクリーンによる映写スペース、ミニ公演を開催するためのステージ、音響機器等を備える。視認性に配慮したスキップフロアとする。	収容人員の想定80名（客席0.7㎡/人×80名＝56㎡） 通路スペース、舞台スペース含む	
			ミニ・シアター準備室・倉庫	40 ㎡		上記の大道具・小道具の収納スペース。			
		②普及活動部門		(200 ㎡)	10.0%			類似施設（2000㎡以下の博物館）の普及部門面積比率は延べ面積の8%程度	
			多目的室	160 ㎡		各修学旅行などの団体誘客につながる教育プログラムや観光体験プログラムを実施する。	可動間仕切りで2室にも分割可能とする。プロジェクターや音響設備などを備え、各種講座やプログラムなどに対応した設備を設ける。	1室あたり30～40名程度収容。 70㎡×2室で構成。収納スペース20㎡含む。	
			講師・ボランティア控室	40 ㎡		講演の際の講師控室など。			
		③収蔵部門		(200 ㎡)	10.0%			類似施設（2000㎡以下の博物館）の収蔵部門面積比率は延べ面積の16%程度	
			収蔵庫・一時保管庫・前室	140 ㎡		展示に必要な最低限の資料を収蔵する。また、企画展示で借用する資料の一時保管庫を整備する。	資料保管のため温湿度管理が可能な空調設備を設ける。一時保管庫は借用資料の材質に応じた温湿度環境が整えられるように計画する。前室は広めにとり、資料の点検スペースを兼ねる。	収蔵庫60㎡＋一時保管庫40㎡＋前室 40㎡	
			トラックヤード・荷解室	60 ㎡					
		管理部門	※物産・観光施設の管理を含む		(450 ㎡)	22.5%			
			事務室		120 ㎡		歴史・文化施設、物産・観光施設を一体管理する職員事務室、館長の執務スペース。		館長1名、職員数8名として。8㎡/人～12㎡/人×9名＝72㎡～108㎡ 事業者スタッフ4～8名 8㎡/人×4～8名＝32㎡～64㎡
				応接室	40 ㎡				
				会議室	90 ㎡		職員のミーティングスペース。	小会議室（6～8名）と大会議室（10～12名）を設ける。	2㎡/人～5㎡/人×10名＝20㎡～50㎡
				学芸員室	40 ㎡				
				書庫	40 ㎡		調査研究に必要な書籍等を保管するスペース。	集密書架を設置する。	
				ロッカー・更衣室	40 ㎡		職員用。		
				WC・湯沸室	40 ㎡		職員及び市民ガイド等の共用。		
	休憩室			40 ㎡	バス車両運転手等の休憩スペース等に利用。		和室など畳敷き。		
	共有部		共有部		(600 ㎡)	30.0%		※共有部は延床面積の30%で設定	類似施設（2000㎡以下の博物館）の収蔵部門面積比率は延べ面積の22%程度
		エントランスホール・風除室・受付				団体利用に適した十分な広さのホールを備える。			
		休憩コーナー・自販機コーナー							
		トイレ（多目的トイレ含む）・授乳室							
		倉庫・資材室							
		搬入口							
		廊下							
		電気・機械室							

(2) 配置計画の検討

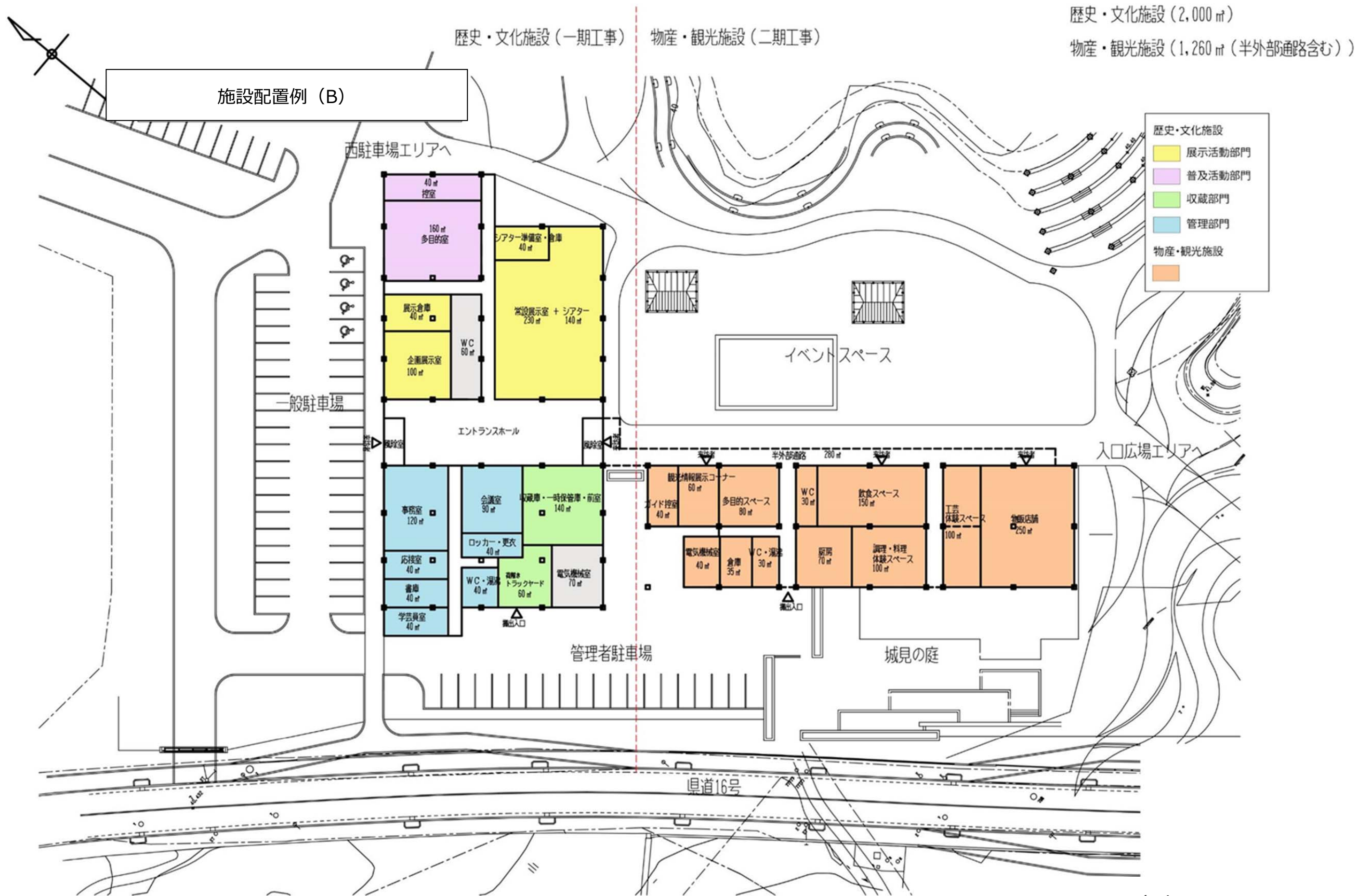
諸室面積表に示された諸室、面積配分、整備内容から施設配置例を3例示す。

歴史・文化施設は1期工事として現変電所設備用地外に計画、物産・観光施設は2期工事として用地取得後に建設を行えるものとした。

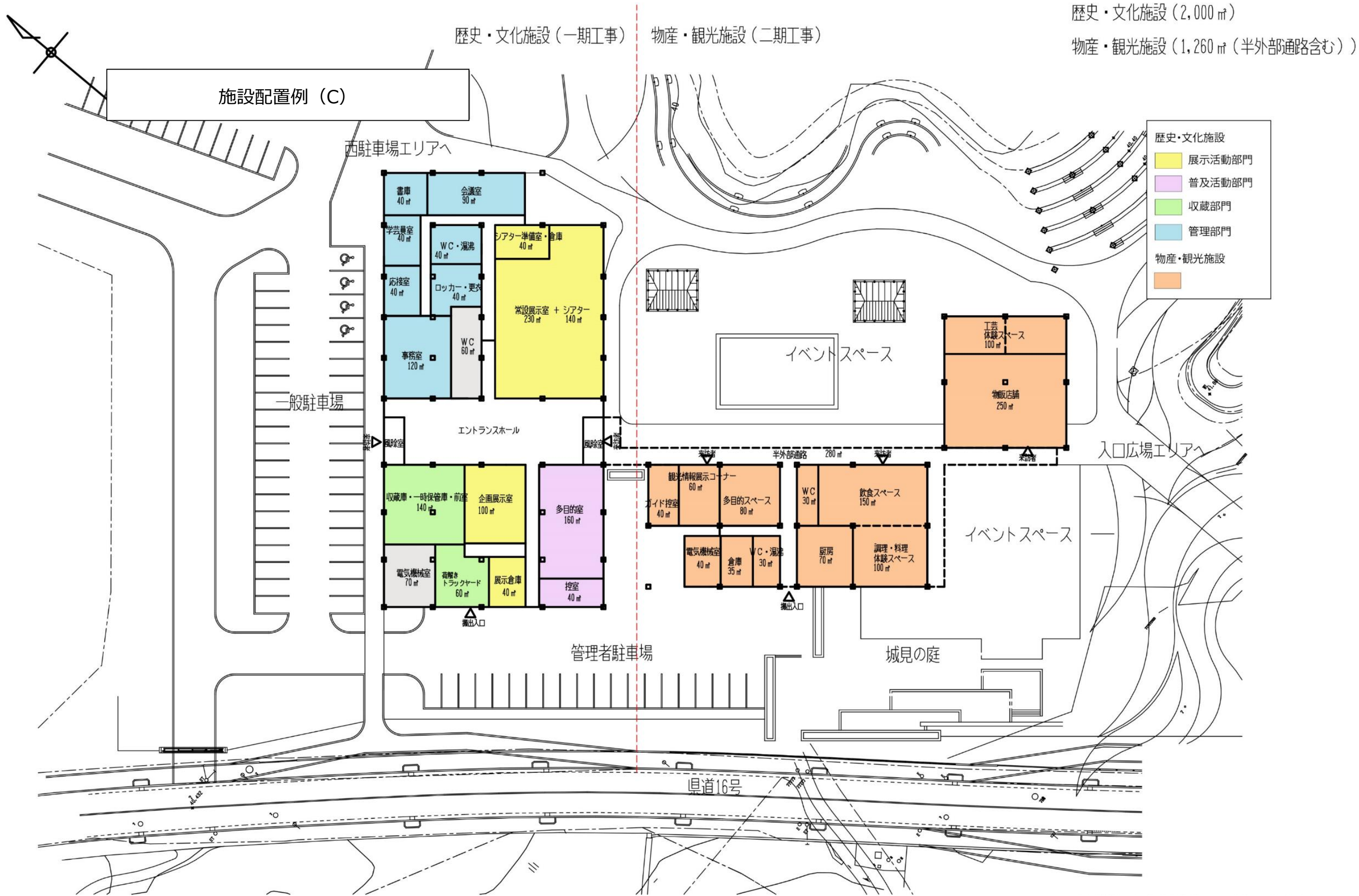
施設配置例	特徴	メリット	デメリット
A	＜歴史・文化施設＞ 両施設の一体的管理に配慮して、管理部門を南面に集約して配置。 ＜物産・観光施設＞ 物販、飲食、観光ターミナルなどの機能を<u>一棟型</u>の建築物として配置。	＜歴史・文化施設＞ 歴史・文化施設と観光・物産施設の一体的管理が行いやすい。 ＜物産・観光施設＞ 外壁・屋根の施工面積が縮小でき、建設コストの低減が見込める。	＜歴史・文化施設＞ 収蔵部門と企画展示室が離れており、文化財資料の搬出入が行いづらい。 ＜物産・観光施設＞ 人工物のボリュームが大きくなり良好な景観をつくりにくい。 機能ごとに個別の運用時間を設けにくい。
B	＜歴史・文化施設＞ 両施設の一体的管理に配慮して、管理部門を南面に集約して配置。(Aに同じ) ＜物産・観光施設＞ 物販、飲食、観光ターミナルなどの機能を<u>分棟型</u>の建築物として配置。	＜歴史・文化施設＞ 歴史・文化施設と観光・物産施設の一体的管理が行いやすい。 ＜物産・観光施設＞ 人工物のボリュームが分割され景観に馴染みやすい。 機能ごとに個別の運用時間が設定できる。	＜歴史・文化施設＞ 収蔵部門と企画展示室が離れており、文化財資料の搬出入が行いづらい。 ＜物産・観光施設＞ 外壁・屋根の施工面積が広くなり、建設コストがAより高くなる可能性がある。
C	＜歴史・文化施設＞ 収蔵部門と企画展示室を南面に集約して配置し、資料の搬出入を容易にした配置。 ＜物産・観光施設＞ 物販、飲食、観光ターミナルなどの機能を<u>分棟型</u>の建築物としてずらして配置。	＜歴史・文化施設＞ 文化財資料の搬出入から展示公開までが効率よく安全に行うことができる。 ＜物産・観光施設＞ 人工物のボリュームが分割され景観に馴染みやすい。 機能ごとに個別の運用時間が設定できる。 屋外と接する箇所が多く、イベントスペースや城見の庭など屋外と屋内が連携させた運用を行うことができる。	＜歴史・文化施設＞ 管理部門が物産・観光施設から離れており、一体的な管理が行いにくい。 ＜物産・観光施設＞ 外壁・屋根の施工面積が広くなり、建設コストが例Aより高くなる可能性がある。



配置図 (A) S = 1/500

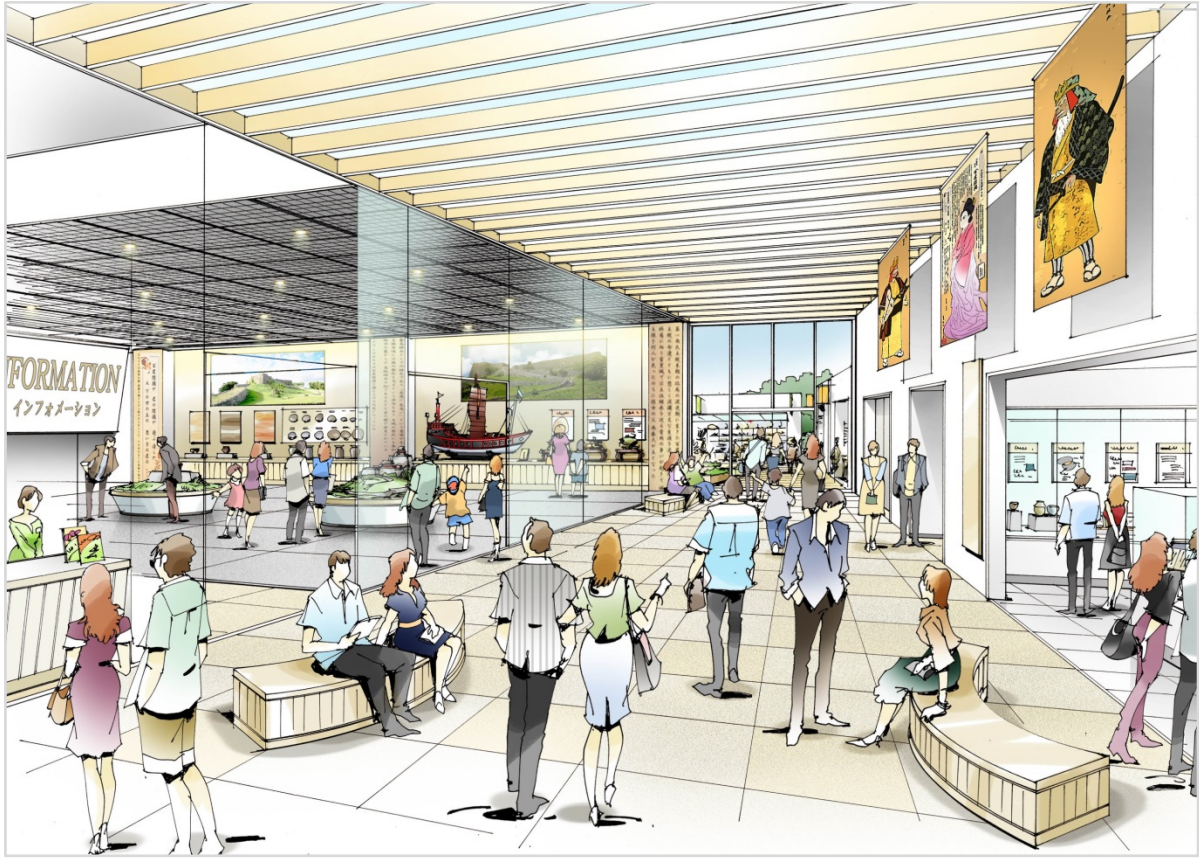


配置図 (B) S = 1/500



配置図 (C) S = 1/500

5. 完成イメージ図



歴史・文化施設のエントランスから館内を望む。
(展示室壁面はイメージを伝えるため、ここではあえて透明に表現しています)



物産・観光施設のショップと憩いの空間のイメージ。



勝連城シアターのイメージ。



物産・観光施設を利用してパーティを行っているイメージ。

6. 事業スケジュール

年度			平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度以降			
								歴史・文化施設 オープン		物産・観光施設 オープン				
建物 （ハード）	歴史・文化施設		基本構想	基本計画	建築基本設計 ・各種与条件の設定 ・設計方針 ・設計図書 ・各種申請 等	建築実施設計 ・各種与条件の設定 ・設計方針 ・設計図書 ・各種申請 等	建築工事 ・建築工事 ・設計監理 ・外構工事 ・各種調整 等		★					
	物産・観光施設						建築実施設計 ・各種与条件の設定 ・設計方針 ・設計図書 ・各種申請 等	建築工事 ・建築工事 ・設計監理 ・外構工事 ・各種調整 等	★					
展示・内装 （コンテンツ）	歴史・文化施設				展示基本設計 ・展示計画 ・展示資料リスト作成 ・展示空間設計 ・与条件調整 等	展示実施設計 ・展示資料リスト作成 ・展示空間設計 ・与条件調整 ・各種設計図書 等	展示制作・工事 ・展示製作 ・建築工事調整 ・開館企画展準備 等							
	物産・観光施設				物販展示基礎設計		物販展示内装設計施工 ・デザインコンセプト・店舗デザイン ・内装工事 ・保健所等検査 等							
運営 （ソフト）	歴史・文化施設	事業者				指定管理募集要項作成	指定管理者募集	開館準備～開館（運営開始） ・開館、記念企画展準備 ・人材育成 ・ボランティア等支援組織準備 等 ・イベント実施 ・事業活動企画立案 ・運営諸規定策定		運営 ・通常運営 ・事業活動実施 ・人材育成 等 ・企画展対応 ・広報、広告、販売促進				
		行政					PR活動 ・PR活動計画（年間計画、PRテーマ作成 等） ・ニュースリリース作成 ・プレスイベント企画、実施 ・PR基本資料作成 ・媒体プロモート ・クリッピング作成 等 ・メディアリスト作成 ・メディア対応		PR活動 ※事業計画にともない、その都度連携協議する。					
	物産・観光施設	物販・飲食事業			事業者				開館準備 ・MD・メニュー基本計画 ・販売基本戦略 ・集客予測の検証 等	開館準備～開館（運営開始） ・マニュアル規定等作成 ・ワークショップ等	運営 ・レプション ・イベント ・広報、広告、販売促進 等			
		産業振興事業			事業者				コンセプト構築 ・体験コンテンツ基本計画 ・参画候補先予備調査 等	商品開発 ・プロモーション計画 等	体験コンテンツ実施 ・プロモーション 等			
					行政		地域資源調査	事業支援 ・地域資源調査 ・支援機関との連絡調整 （うるま市新商品開発及びブランド化促進事業） （うるま市創業支援計画～平成32年） ・プロモーション支援 等						
					支援機関			事業支援 ・事業計画作成支援 ・販路拡大支援 ・資金相談 等						
					観光ターミナル事業	事業者		地域資源調査 運営方法調査		地域資源調査 ・参画候補者調査 ・集客予測 ・販売基本戦略 ・プロモーション基本計画 等	マニュアル作成 ・着地型観光商品企画 ・プロモーション企画、実施 等	販売受付 等		
		関連計画					入口ゲート完成		歴史・文化施設 利用者駐車場完成			公園エリア完成		

第5章 概算事業費

1. 建設費等の概算試算

当計画施設の整備を進めるにあたり、歴史・文化観光施設（1期工事）と物産観光施設（2期工事）の建設事業費を想定する。

■歴史・文化施設

歴史文化施設概算（延床面積 2,000 m²）

項目	金額	備考
建築工事費	505,000,000 円	杭長は 10m を想定 ※1
電気設備工事費	162,000,000 円	※1
機械設備工事費	131,883,000 円	※1
内装・展示工事費（1）	165,020,000 円	常設展示室＋ミニ・シアター370 m ² ※2
内装・展示工事費（2）	28,000,000 円	企画展示室 ※2
合計	991,120,000 円	

※四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

※1「平成 29 年度：新営予算単価」により算定した。

※2 類似施設事例より算定した。

※用地購入費、既設撤去工事費、造成工事費、外構（設備含む）工事、植栽工事費、測量・土質調査費などは別途とする。消費税は別途とする。

※第二変電所（本計画）は第一変電所（別途工事）よりの分岐とする。

※什器備品は別途工事とする。

※演劇等の公演に舞台照明設備、音響設備が必要な場合は別途計上が必要となる。

※公共下水道は未整備だが平成 30 年度整備予定のため浄化槽は計上しない。

※防火対象物の区分：8 項 図書館・博物館・美術館の類

■物産・観光施設

物産・観光施設概算（延床面積 1,000 m²）

項目	金額	備考
建築工事費	244,100,000 円	杭長は 10m を想定 ※1
電気設備工事費	86,000,000 円	※1
機械設備工事費	79,300,000 円	※1
内装・展示工事費	191,400,000 円	計 660 m ² ※2
合計	600,800,000 円	

※1「平成 29 年度：新営予算単価」により算定する。

※2 類似施設事例より算定より算定する。

※用地購入費、既設撤去工事費、造成工事費、外構（設備含む）工事、植栽工事費、測量・土質調査費などは別途とする。消費税は別途とする。

※第二変電所（本計画）は第一変電所（別途工事）よりの分岐とする。

※什器備品は別途工事とする。

※公共下水道は未整備だが平成 30 年度整備予定のため浄化槽は計上しない。

※内装・展示工事費は物販店舗 250 m²、飲食スペース 150 m²、体験スペース 100 m²、工芸体験スペース 100 m²、観光情報展示コーナー60 m²、計 660 m²にて算定

※防火対象物の区分：16 項（イ） 複合用途防火対象物（飲食・物販・展示）

※厨房機器含まない。

2. ランニングコストの整理

当計画施設の維持管理費（ランニングコスト）は、次のとおり想定する。

■歴史・文化施設

項目	年額
水道料	556,000 円/年
電気料	6,645,000 円/年
修繕維持費	4,956,000 円/年
損害保険料	1,190,000 円/年
合計	13,347,000 円/年

■物産・観光施設

項目	年額
水道料	1,201,000 円/年
電気料	3,323,000 円/年
修繕維持費	3,004,000 円/年
損害保険料	721,000 円/年
合計	8,249,000 円/年

※当計画施設の長期修繕を含む維持管理費の想定は建築設計の内容に依るところが大きく、建築物及び設備機器の修繕内容や更新時期の想定が難しいため、建築設計時に検討を行うものとする。

勝連城跡周辺文化観光施設基本計画

発行：うるま市

沖縄県うるま市みどり町1丁目1番1号

<http://www.city.uruma.lg.jp/>

編集：都市建設部 都市政策課

TEL：098-923-7606（直通）

FAX：098-923-7604

